

D Series

取扱説明書

JA



安全にご使用していただくため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。また、いつでもご覧になれますように保管してください。

■アフターサービスと保証

- この装置には保証書がついています。
- 保証書は、お買い上げのお店で所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げの日から1年間です。
- 保証期間中でも有料になることがありますので、ご了承ください。
(保証書に詳細を記載してありますので、そちらをご覧ください。)
- この装置は日本国内専用機種ですので、海外でのご使用はできません。また、海外での保証、アフターサービスは受けることができません。
- 保証期間経過後の修理につきましては、お買い上げのお店にご相談ください。
当社は、この装置の補修用性能部品を、製造打ち切り時点から最低8年間保有しています。

■仕様表

項目	仕様
型式	D Series
定格電圧	100V
消費電力	70W
周波数	50 / 60Hz
LEDライト	Max. 100mW
寸法	幅 401mm × 奥行 182mm × 高さ 301mm
重量	5.8kg (本体のみ)

JUKI

JUKI 株式会社

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧 2-11-1

アフターサービスについて、ご相談、ご要望がございましたら、お買い上げのお店、または下記のお客様相談室へお問い合わせください。

フリーダイヤル

☎0120-677-601

年末年始・夏季休暇・祝祭日を除く

平日(月～金) 9:00～12:00、13:00～17:00

Copyright © 2023 JUKI CORPORATION

本書の内容を無断で転載、複製することを禁止します。

購入店名 後日のために記入しておいてください。
サービスを依頼されるときお役に立ちます。

電話 (- -)

購入年月日： 年 月 日

この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前に「安全にご使用していただくために」をよくお読みいただき、この取扱説明書で機能や使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。

お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保証書とともに保管してください。

製品改良のため、本体の色・デザイン・仕様など予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

取扱説明書は、改善のため変更することがあります。



上記の取扱説明書は、インターネットで最新版を公開しています。（取扱説明書のほか、お使いになるうえでの注意事項を公開しています）

https://www.juki.co.jp/household_ja/vc-files/doc/pdf/d-series_manual.pdf





安全にご使用していただくために

この取扱説明書および製品に使われている表示や絵文字は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになられる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

警告表示は以下のように使い分けています。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵文字の意味は次のとおりです。






	注意すること		感電の危険があります		火災の危険があります
	手などへの傷害の危険があります		してはいけないこと		分解、改造をしないでください
	針の下に指を入れないでください		必ず行うこと		電源プラグをコンセントから抜いてください

このミシンを正しく安全にご使用していただくために、下記のことがらを必ずお守りください。






このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。











This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.

警告

	一般家庭用交流電源 100V の電圧以外では、絶対に使用しないでください。
	下記のようなときは電源スイッチを切り、室内コンセントから電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none">● ミシンのそばを離れるとき。● ミシンをご使用になったあと。● ミシンのご使用中に停電したとき。● ミシンをお手入れするとき。● ミシンを移動させるとき。● 接触不良・断線などで正常に動作しないとき。● 雷が鳴りはじめたとき。
	電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
	直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロン、火の消えていないたばこ、ろうそくなど火の気のあるもののそばや温度の高いところでは使用しないでください。 ミシン内部の温度が上がったり、電源コードの皮膜等が溶けて火災・感電の原因となります。 ミシンの使用温度は 5℃～ 40℃です。
	スプレー製品などをご使用の部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどの原因となります。

注意

	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・緩んだコンセントは使用しないでください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
	電源プラグやフットコントローラーを抜くときは、まず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。コード部分を引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

	<p>電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。</p> <p>電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店にご連絡ください。</p>
	<p>ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は必ず壁から 30 cm 以上離して使用し、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。</p>
	<p>ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。落下しやすい場所でのミシンのご使用、保管はしないでください。</p>
	<p>以下の場所に設置、保管しないでください。故障の原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 温度が著しく高くなる場所 • 温度が著しく低くなる場所 • 急激に温度が変化する場所 • 湿気、湯気の多い場所 • 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 • 野外や直射日光の当たる場所 • ほこり、油煙の多い場所
	<p>フットコントローラーの上に物をのせないでください。 けが、故障の原因となります。</p>
	<p>お客様ご自身での分解、改造はしないでください。 指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は販売店にご依頼ください。</p>
	<p>ミシンを操作するときのかま部などカバー類を閉じてください。 けがの原因となります。</p>
	<p>ミシンの縫製中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車（プーリー）、天びんなど、すべての動いている部分に手を近づけないでください。 けがの原因となります。</p>
	<p>曲がった針は絶対に使用しないでください。 針折れの原因となります。</p>
	<p>縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。 けが、針折れの原因になります。</p>
	<p>お子様の玩具としては使用しないでください。 お子様がミシンをご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してご使用してください。</p>

	<p>下記のことを行うときは、電源スイッチを切り取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 針、針板、押え、アタッチメントなどを交換するとき。 ● 下糸をセットするとき。
	<p>取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。</p>
 	<p>ミシンやフットコントローラーに下記の異常があるときは、速やかに使用を停止し、販売店にて点検、修理、調整をお受けください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 煙が出ている。 ● 正常に作動しないとき。 ● 落下などにより破損したとき。 ● 水に濡れたとき。 ● 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。 ● 異常な臭い、音がするとき。 ● 異物が入ったとき。
  	<p>ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。 万が一異物が入った場合はミシンの使用をやめてお買い上げの販売店にご連絡ください。</p>
	<p>針の下に指などを入れないでください。けがをするおそれがあります。</p>
	<p>ミシン本体には、取扱説明書に記載されている正規部品をご使用ください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。</p>
	<p>ミシン本体が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか、破棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。</p>
	<p>ミシン本体は、必ずハンドル（取っ手）を持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落としたりして、けがの原因になります。</p>
	<p>リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。</p>
	<p>布地と糸と針の組み合わせは、「布地に合った糸と針の選び方」の説明表に従って適切な組み合わせでご使用ください。 組み合わせが適切でない場合、特に厚い布地（デニムなど）を細い針（11番以下）でぬうと針が折れ、思わぬ怪我をする可能性があります。</p>
	<p>上糸、下糸などに関する操作については取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。取扱を誤ると縫製中に糸がらみなどを発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。</p>

その他のご注意

- 直射日光が当たる場所、湿気が多い場所には置かないでください。



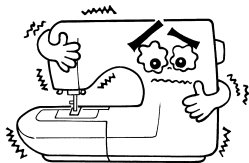
- シンナーなどの溶剤でふかないでください。



汚れたときは、やわらかい布に中性洗剤を少量つけて、よくふきとってください。

- 5℃～40℃の範囲でお使いください。

温度がいちじるしく低い場合、正常に動かないことがあります。



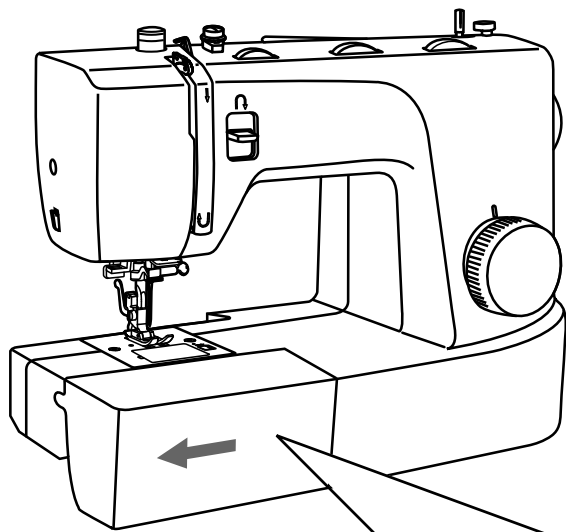
QR コードから操作サポートビデオにアクセスすることができます。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PL4P7rfeya4jKZLdiKStT-UKkU6qsmpMPu>

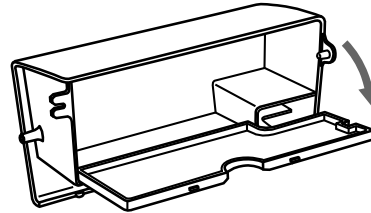
もくじ

付属品.....	7	直線ぬい.....	28
補助テーブル.....	8	返しぬい.....	29
各部の名称.....	9	ぬい方向のかえ方.....	29
電源のつなぎ方と始動・停止.....	10	厚地のぬい始め.....	29
ボビンの取り出し方.....	11	段ぬい.....	29
下糸の巻き方.....	12～13	ジグザグぬい.....	30
補助糸立棒の使い方.....	14	たちめかがり.....	30
ボビンのセット.....	15	飾りぬい.....	31
上糸のかけ方.....	16～17	まつりぬい（ブラインドステッチ）.....	32～33
糸通しの使い方.....	18	ボタンホールのぬい方.....	34～35
下糸の引き上げ方.....	19	伸縮強化ぬい.....	36
針の取り外し方と取り付け方.....	20	ボタン付け.....	37
布地に適した針と糸の選び方.....	21	ファゴティング.....	38
模様を選び方.....	22	パッチワーク.....	38
ぬい目の長さの調節方法.....	23	ファスナー付け（別売品）.....	39～40
ふり幅の調節方法.....	23	ミシンのお手入れ.....	41
針位置の調節方法.....	24	LED ライトの交換.....	41
押え圧力の調節について.....	24	故障かな・・・というときは.....	42
上糸調子の合わせ方.....	25		
布地の裏側がタオル地のようになるのは.....	25		
押えの取り外し方と取り付け方.....	26		
押えホルダーの取り外し方と取り付け方.....	26		
シームガイドの取り付け方.....	26		
押え上げレバー.....	27		
ドロップフィードレバーの使い方（送り歯の上げ下げ）.....	27		

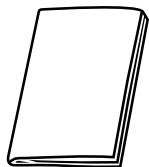
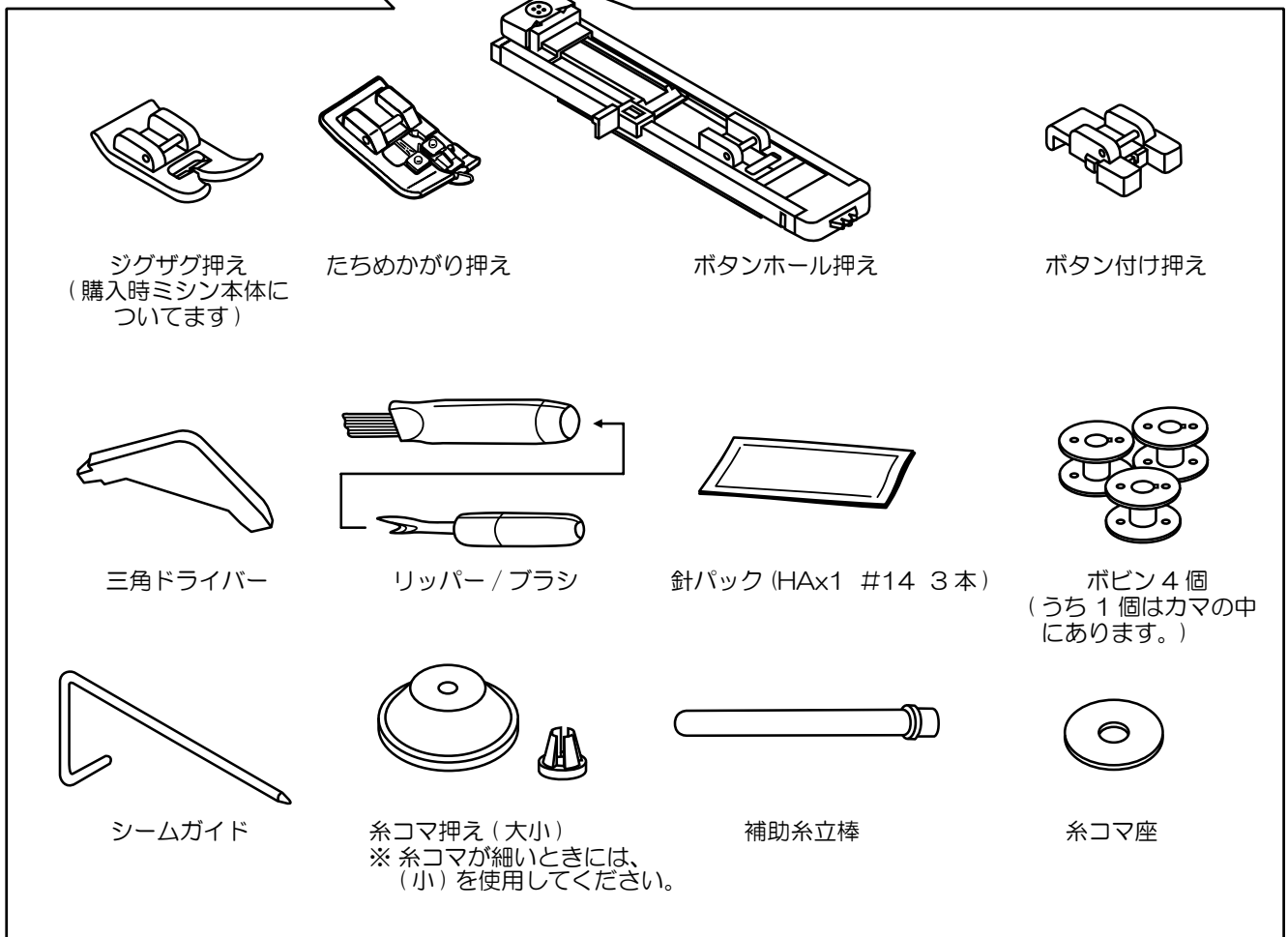
付属品



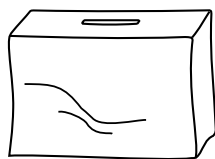
- 補助テーブルは、左方向にスライドさせると本体より取り外せます。
- 付属品は、補助テーブルの中に入っています。



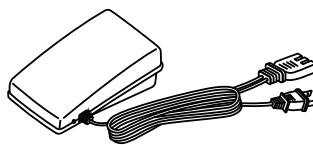
※開け方は、次のページをご覧ください。



取扱説明書



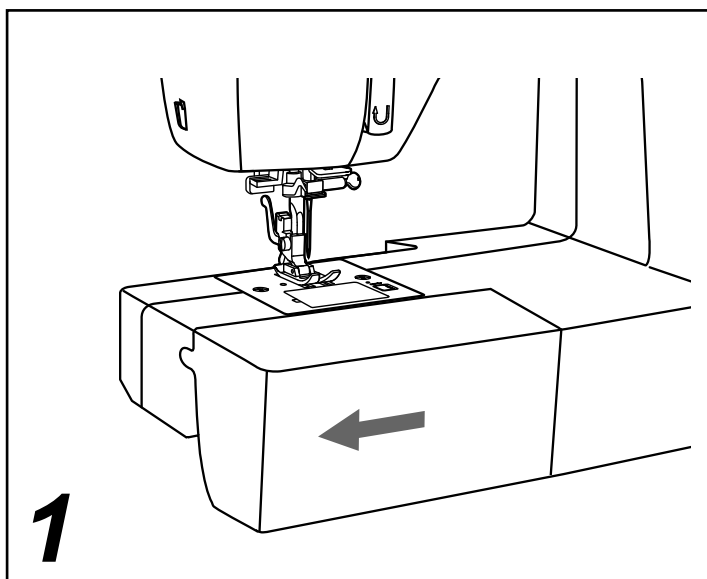
ソフトカバー



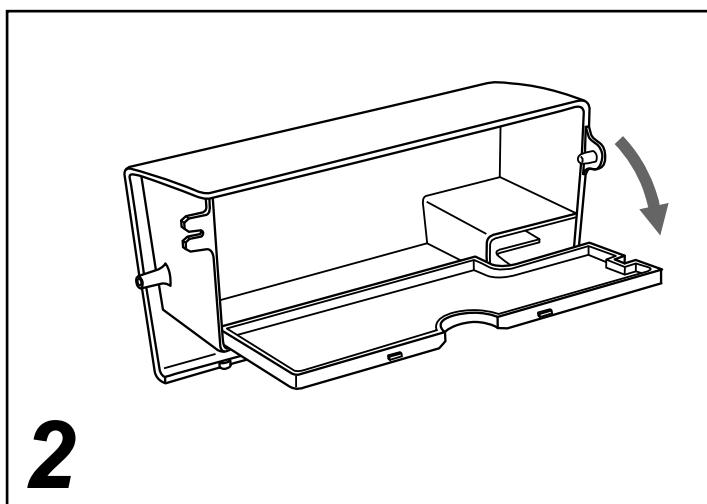
フットコントローラー
(電源コード 一体式)

補助テーブル

補助テーブルを外すと、袖口や、裾、袋物をぬうときに利用できるフリーアームになります。

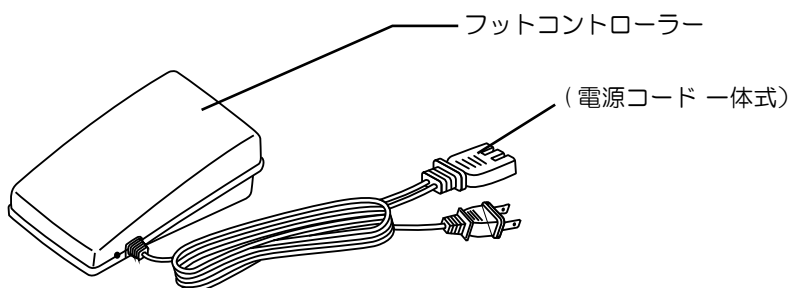
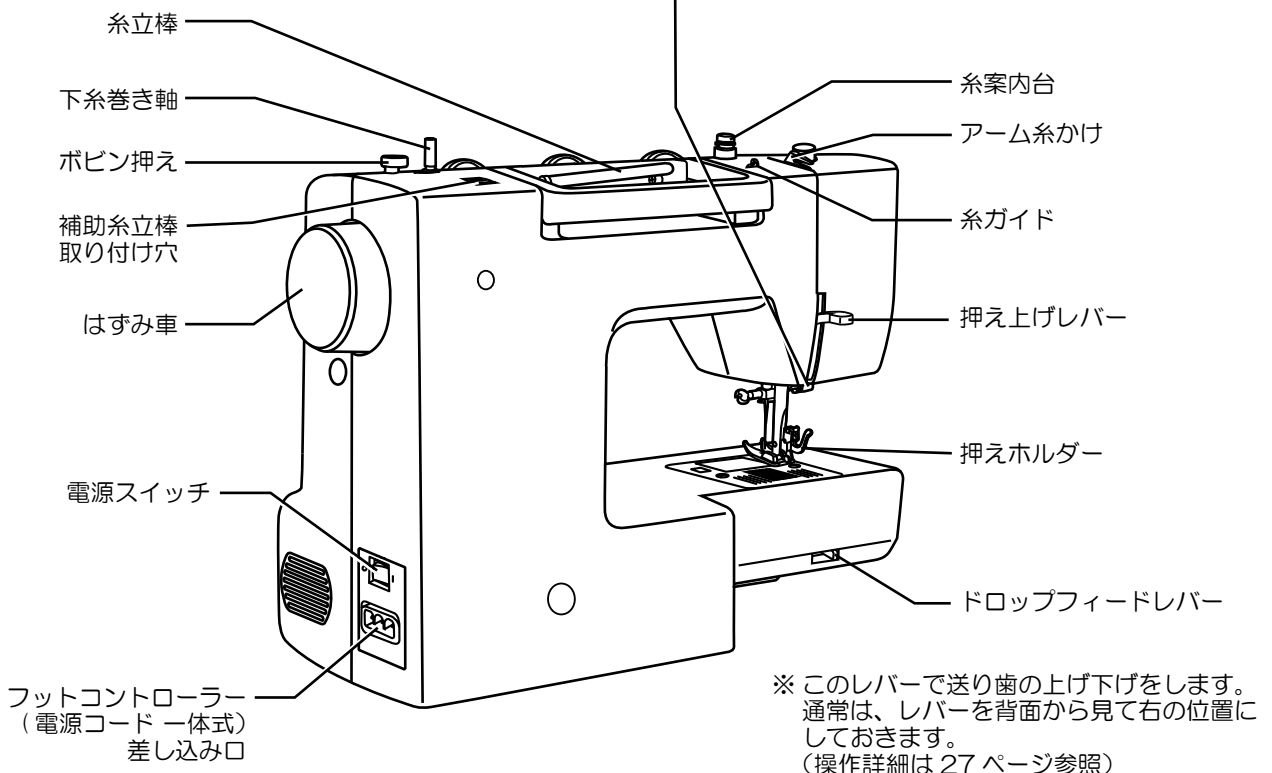
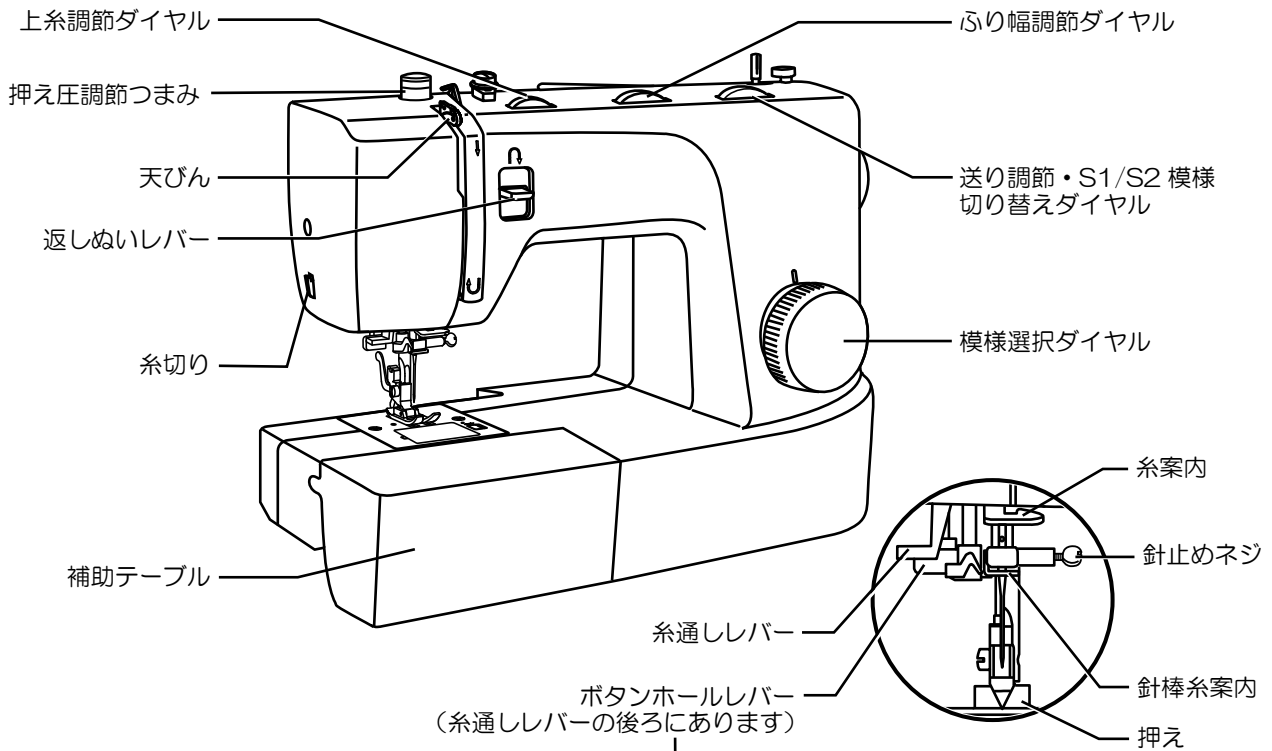


- 1** 補助テーブルの左を持って矢印方向に引くと、簡単に取り外せます。



- 2** 補助テーブルの内部は、付属品入れになっています。
後ろにあるカバーは手前に開きます。

各部の名称

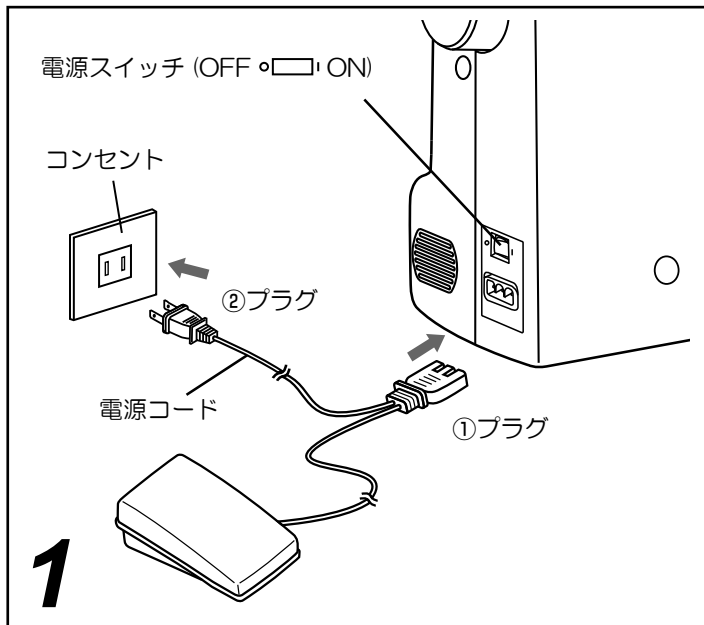


電源のつなぎ方と始動・停止



警告

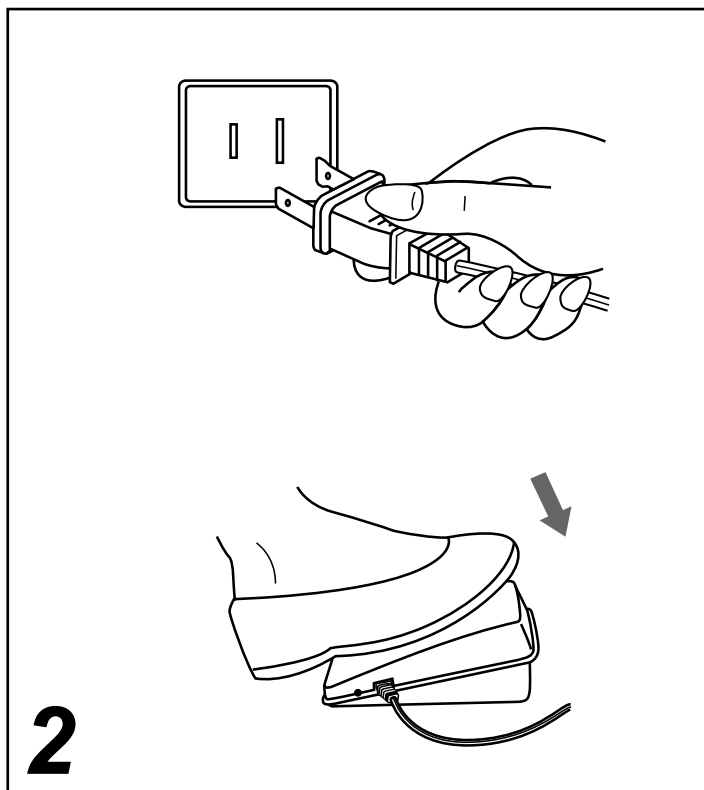
感電、火災を防ぐために
電源は必ずプラグ部分を持って抜き差ししてください。



1

電源コードのプラグ①をマシンに、プラグ②を家庭用電源コンセント (100V 50/60Hz) に差し込みます。

電源スイッチを入れると、LED ライトが点灯します。



2



注意

マシンをご使用にならないときには、必ず電源プラグを抜いて置いてください。



警告

感電、火災を防ぐために
コントローラーは落としたり、
座ぶとんなどの下において使用し
ないでください。

マシンのスタート・ストップは、フットコントローラーで行います。フットコントローラーの踏み加減でぬう速度を調節できます。

フットコントローラーの使い方

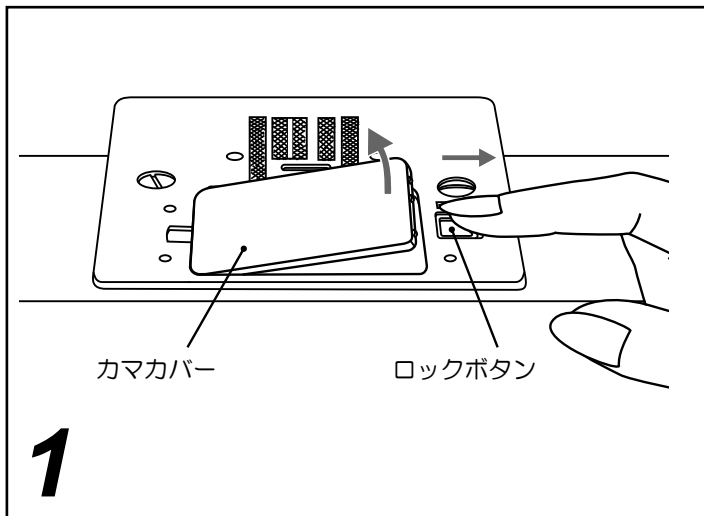
- 軽く踏む：ぬいスピードは遅い
- 深く踏む：ぬいスピードは速い

ボビンの取り出し方



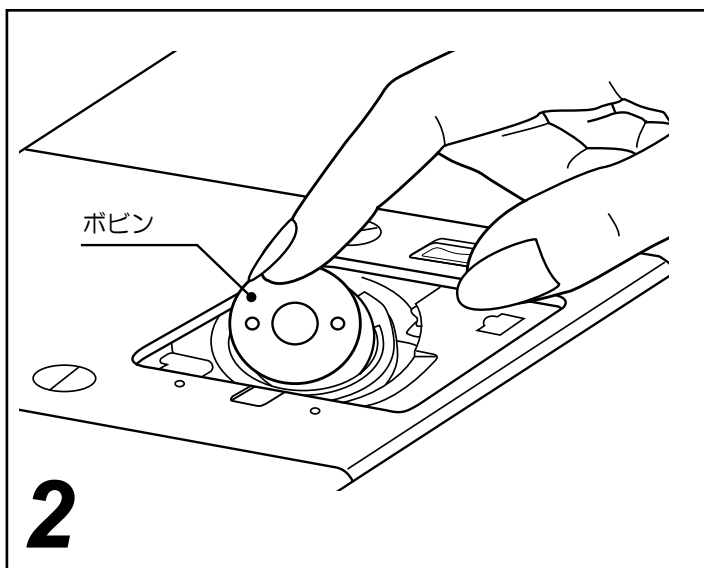
警告

ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



ボビンの取り出しは、カマカバーを開けてから行います。


1 カマカバーの右にあるロックボタンを右へスライドさせると、カマカバーが開きます。

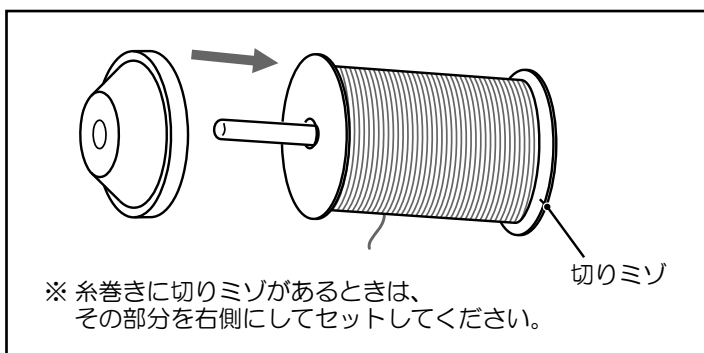
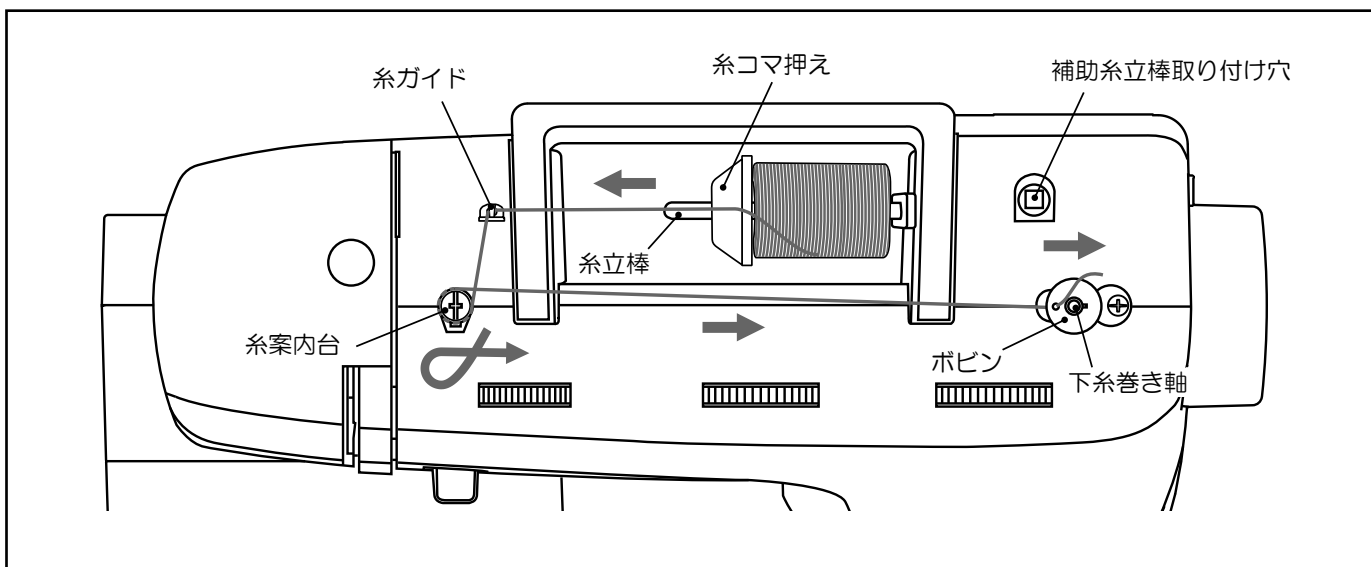


2 カマカバーを外し、ボビンを取り出します。

下糸の巻き方

下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。

 注意	<p>ケガ防止のために</p> <ul style="list-style-type: none"> 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸立棒に糸がからまり、ボビンにきれいに糸が巻けません。 ボビンは必ず専用ボビン（高さ 11.5mm プラスチック製）を使用してください。専用ボビン以外を使用すると、ミシンが正しく動作しません。ケガ・故障の原因となります。 ボビンを取り出すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
---	--

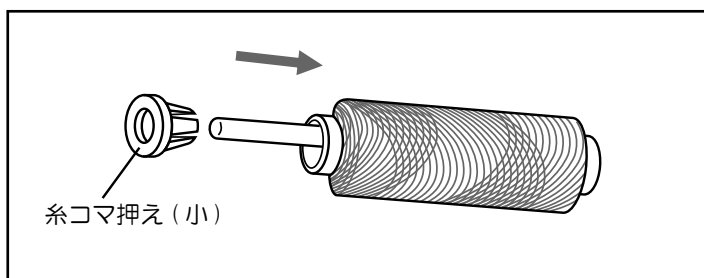


1

糸コマをセットします

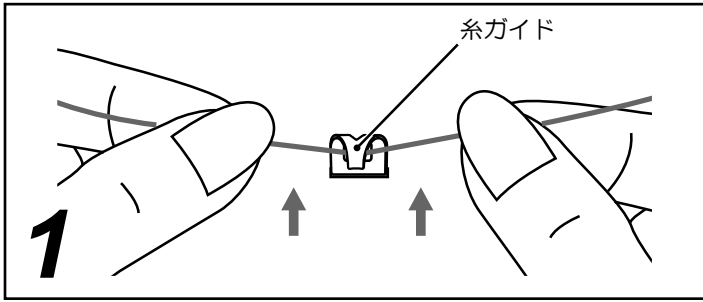
糸立棒を軽く持ち上げ、下側から手前に糸が出る向きにして糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

※ 小さい糸を使用するときは、糸コマ押えを裏にして取り付けます。



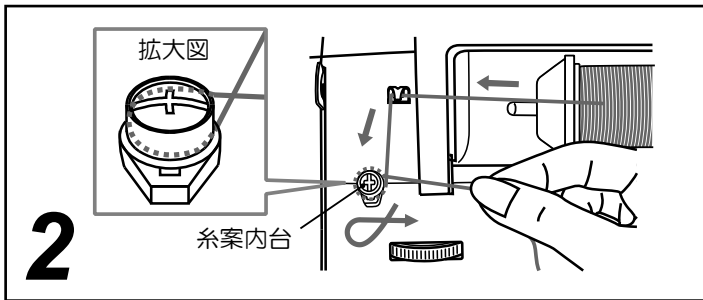
糸コマが細いときには、糸コマ押え(小)をご使用ください。

下系の巻き方



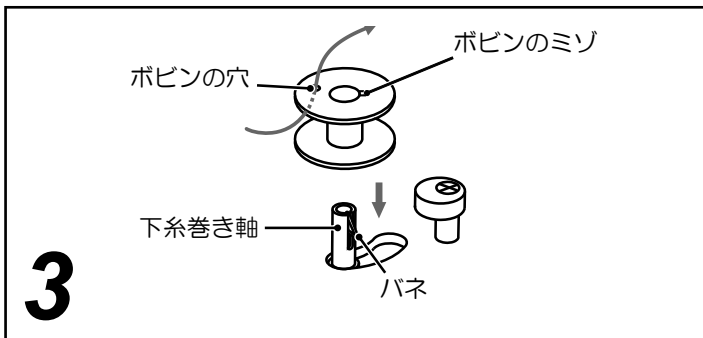
下系を巻きます

1 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの手前から奥に糸をかけます。

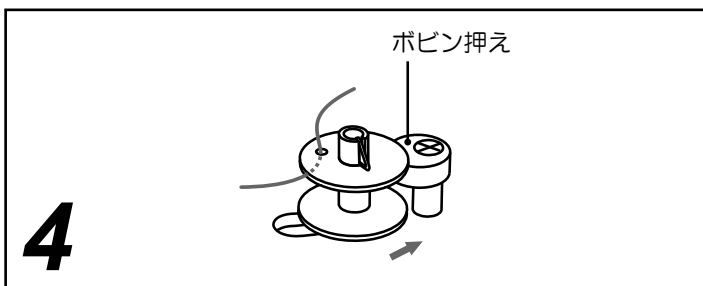


2 かけた糸の糸はしをさらに引いて、糸案内台の下すき間に、手前から後ろ(右回り)に糸をかけます。

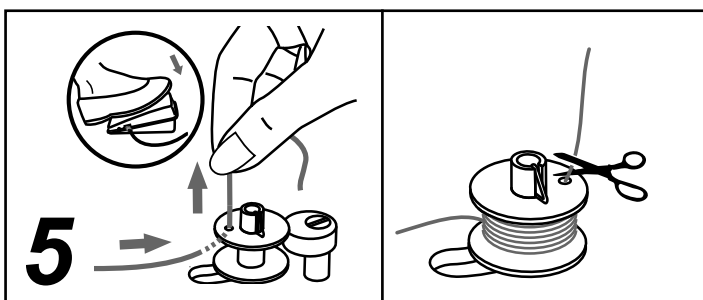
※ ただしく糸がかかっていると、糸を右に引いたとき、抵抗感があります。



3 糸案内台にかけた糸を右に引き出し、ボビンの穴に内から外に通します。ボビンを下系巻き軸に差し込みます。

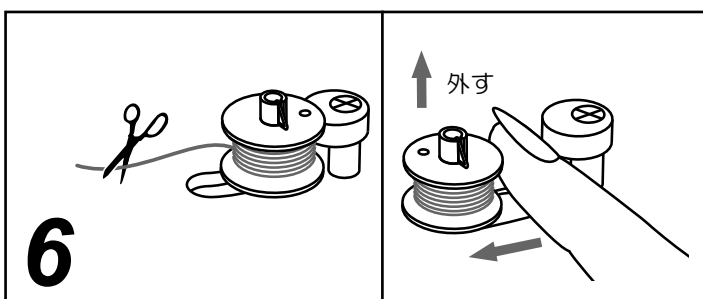


4 下系巻き軸にセットしたボビンを右方向にスライドさせボビン押えに押し付けます。



5 ボビンの表面の穴から出た糸を、10 cm ほど引き出し、そのまま糸はしを手で真上の方向に持ちます。

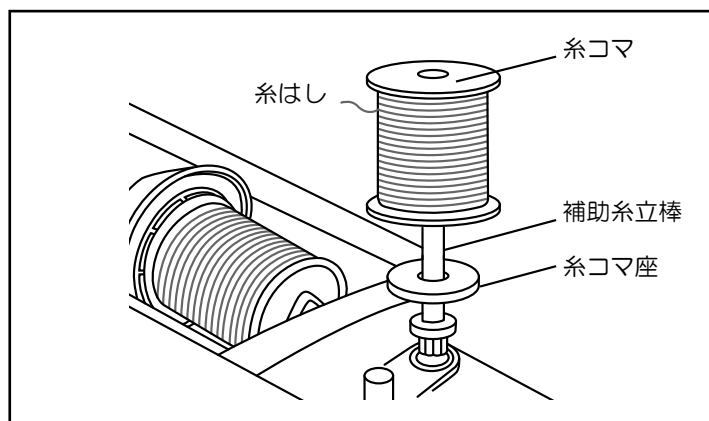
フットコントローラーを軽く踏み巻き始めます。少し糸を巻いたら、いったん止めて、ボビンの上に出ている余分な糸を切ります。その後、再度巻きます。



6 巻き終わると、ボビンの回転がゆっくりになります。

糸を切り、下系巻き軸を左に戻してからボビンを取り外してください。

補助糸立棒の使い方

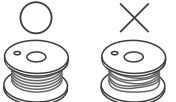


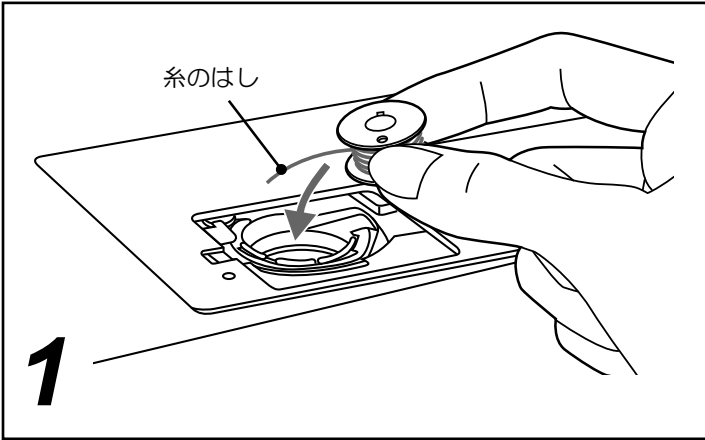
付属の補助糸立棒を使うと、ミシンに付いている糸立棒に糸コマをセットしたまま、別の糸コマで糸巻きができます。

補助糸立棒を使う時は、左図のように補助糸立棒に、糸コマ座を差し込んでから、補助糸立棒取り付け穴(12 ページ参照)に差し込んでください。

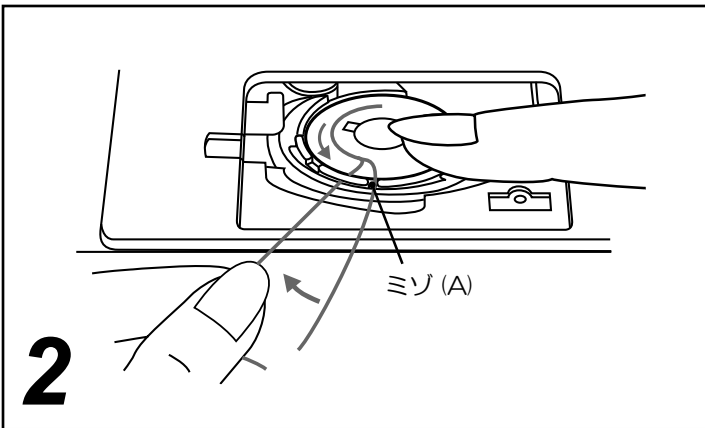
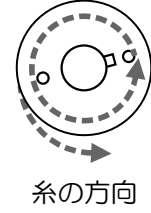
下糸巻きの方法は、糸コマから糸を引き出し、13 ページの 1～6 の手順で、ボビンに下糸を巻きます。

ボビンのセット

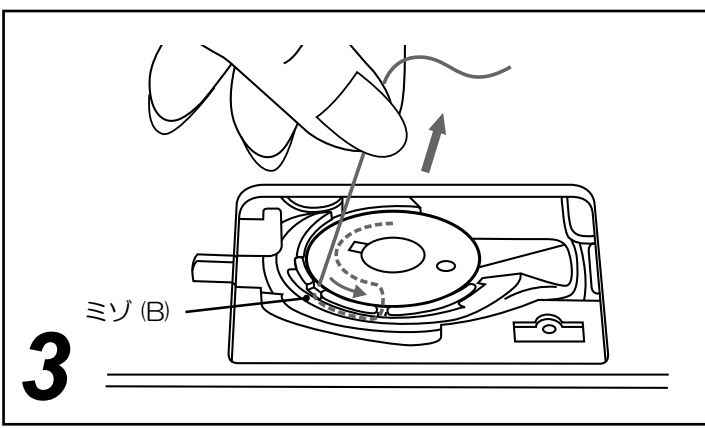
<p>! 注意</p>	<p>下糸は正しく巻かれたものをご使用ください。 下糸の巻き方が悪いと、針折れや糸調子不良の原因となります。</p>	
--------------------	--	---



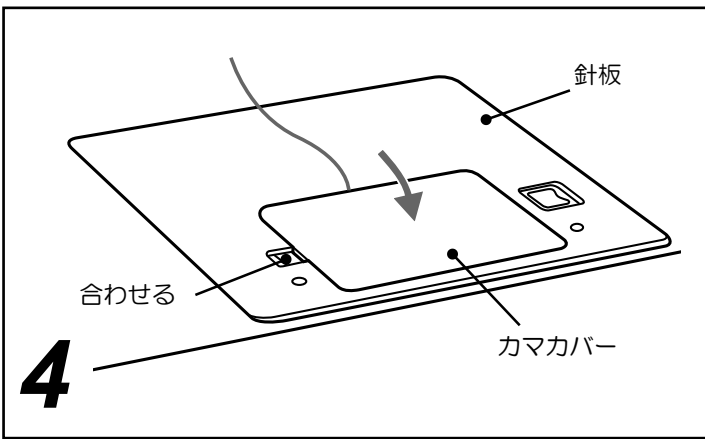
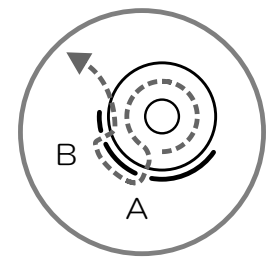
1 カマカバーを外し、糸のはしを出して、カマの中にボビンが左回りになるように入れます。



2 右手でボビンを押え、左手で糸のはしを引きながら、ミソ(A)にかけます。



3 そのまま糸をミソ(B)にかけ、左奥へ出します。



4 カマカバーの左の突起部分を、針板の下に差し込み、右側を押え、カマカバーを閉じます。

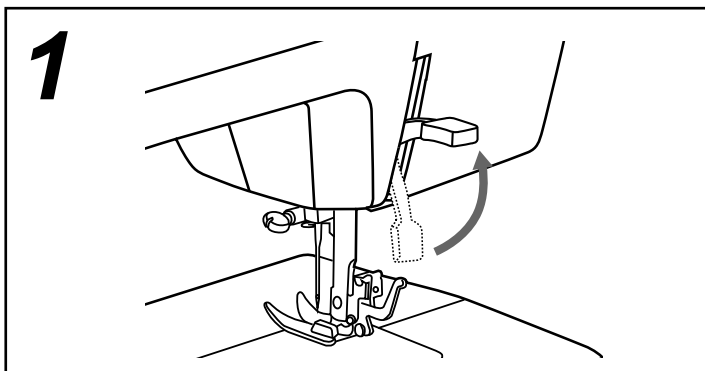
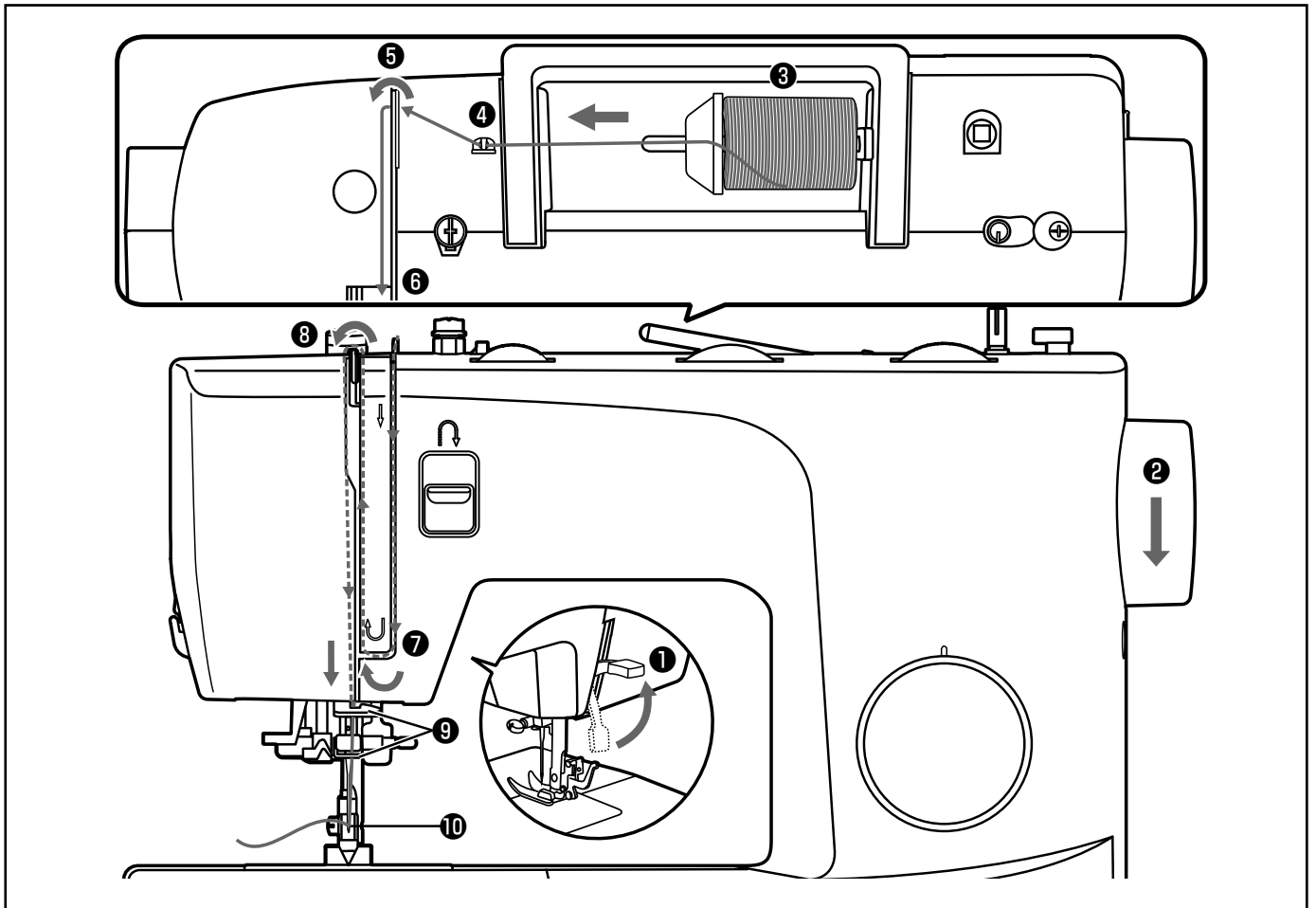
※ミシンを操作するときは、必ずカマカバーを閉めてください。

上系のかけ方



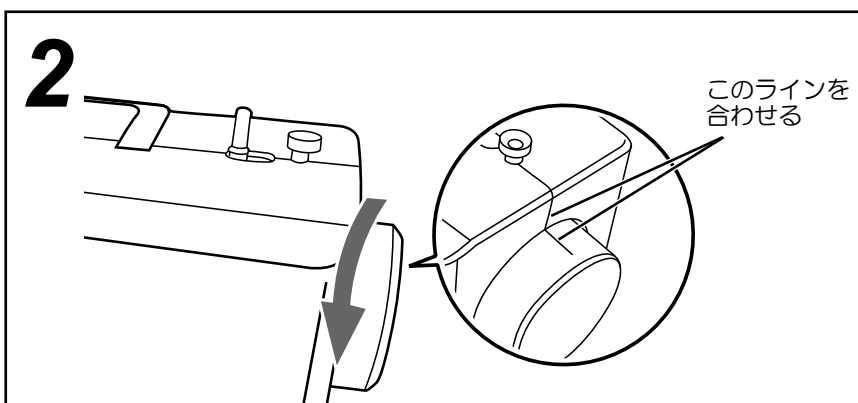
警告

ケガ防止のために
必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



1

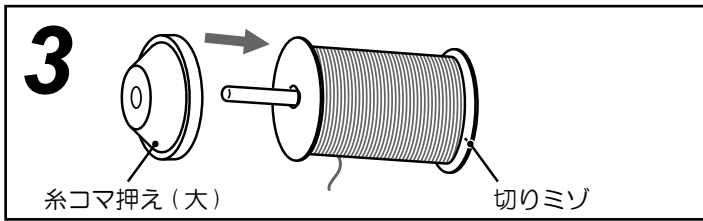
押え上げレバーを上げます。
※ 糸調子皿が開放され糸が通しやすくなります。



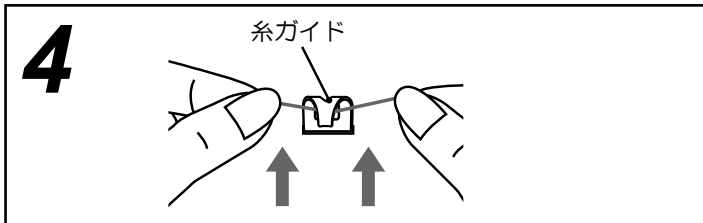
2

はずみ車を手前に回して、針上
止点ラインに合わせます。
※ 糸を天びんに掛けられるよう
になります。

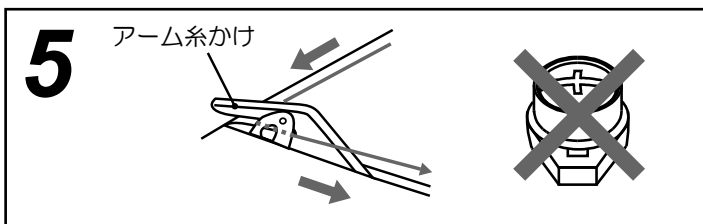
上糸のかけ方



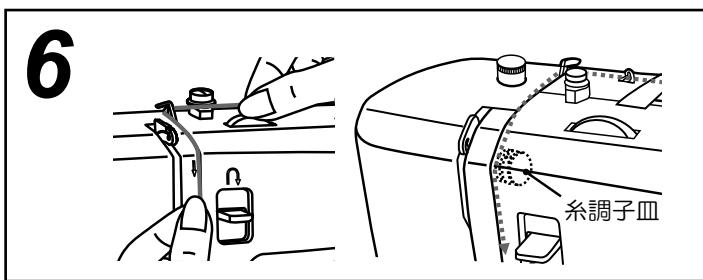
- 3** 糸コマをセットします。
下側から手前に糸が出る向きにして、糸コマを糸立棒にセットし、糸コマ押え (大) で、糸コマを押えます。
※ 糸コマが細い場合には、糸コマ押え (小) を使用してください。



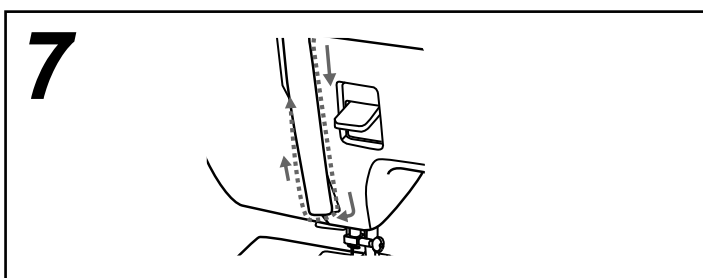
- 4** 糸ガイドの手前から後ろに糸をかけます。



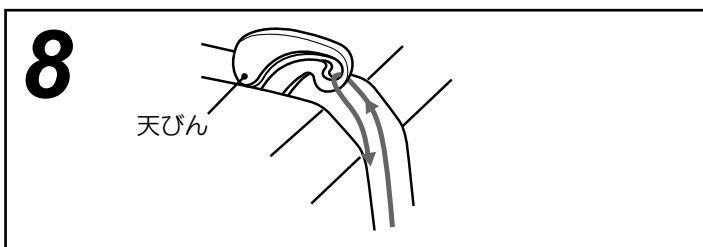
- 5** アーム糸かけに背後から手前に糸をかけます。アーム糸かけの下に糸が通ります。
※ 下糸巻きの際使用した、糸案内台には糸を絶対にかけないでください。



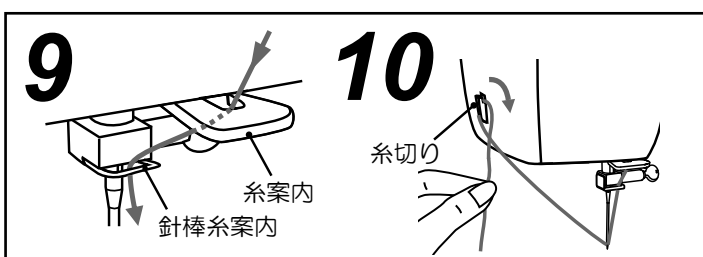
- 6** 右側の糸道に糸を引き下ろして、糸を両手で持ち、糸調子皿の間に通します。
※ 糸調子皿は、ミシン内部の部品ですので、外からは見えません。



- 7** 糸を左側の糸道から上に引き上げます。




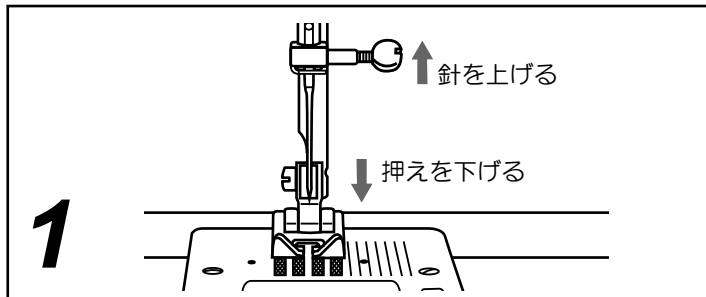
- 8** 天びんの右から後ろへ糸を回し左前に引き、天びんの穴の奥まで糸をかけます。



- 9** 引き下ろした糸を、糸案内に右奥からかけ、針の上にある、針棒糸案内に右奥から糸をかけます。
10 針穴には前から後ろに糸を通します。余分な糸は糸切りでカットします。

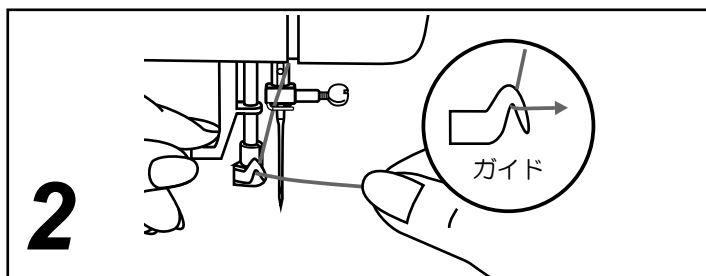
糸通しの使い方

 警告	<p>ケガ防止のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないでください。 ・ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。 <p>糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。</p>
---	--

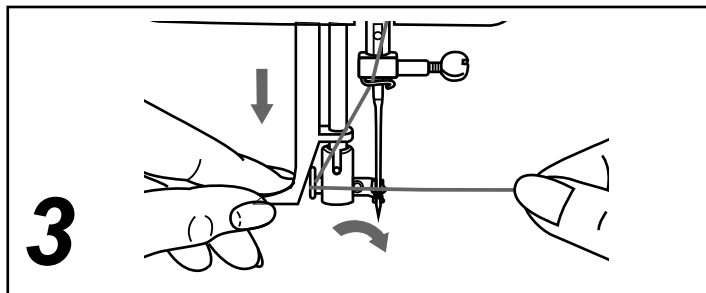


1 押え上げレバーを下げ、押えを下げます。

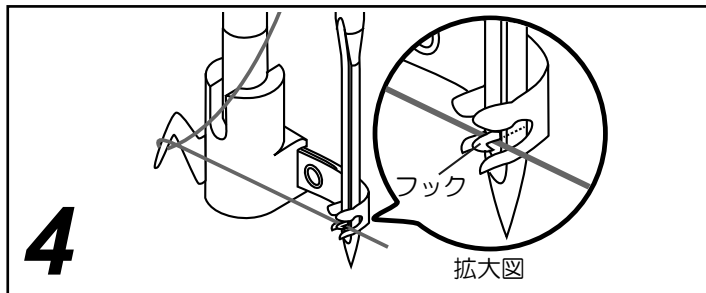
はずみ車を手前に回して、針上止点ラインを合わせ針を上げます。(16 ページ参照)
糸通しが使用できる針は、11 番、14 番、16 番です。



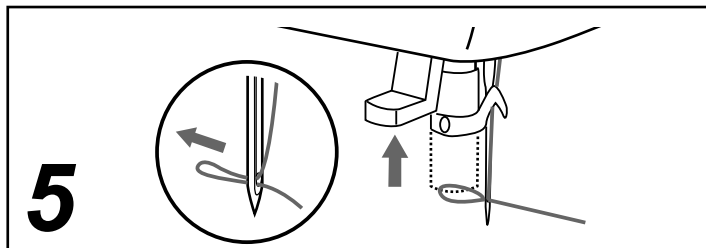
2 糸通しレバーを軽く下げ、糸を糸通しの左側にあるガイドにかけてから、右に引いていきます。



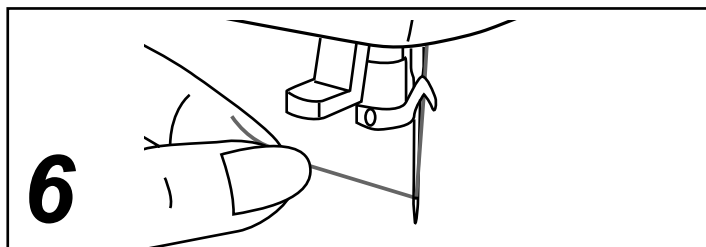
3 レバーを一番下までぎゅっと下げます。糸通しが回転し、右側の針穴にフックが通ります。



4 フックは針側に 2 ヶ所ある、ガイドの中間にあります。針穴が正しい位置でないときは、フックが通りません。針位置を確認してください。(20 ページ参照)
針穴にフックが通らないまま無理に押し、フックが曲がり針穴に通らなくなることがあります。

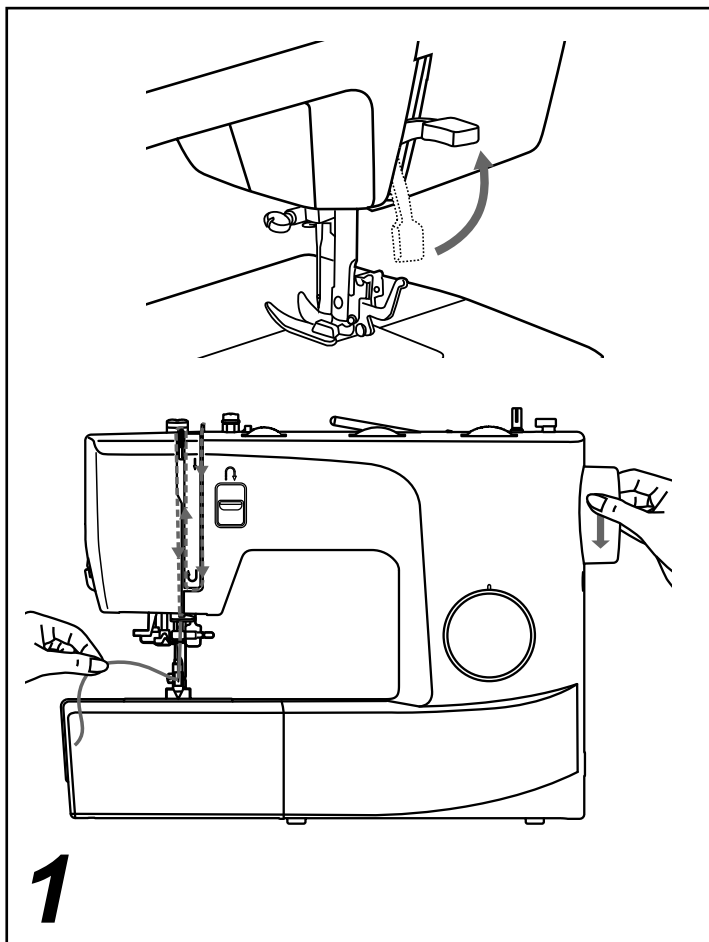


5 右手で糸を軽く持ってレバーをゆっくり放し、糸も放します。糸が輪になって針穴に通ります。フックは元の位置に戻ります。



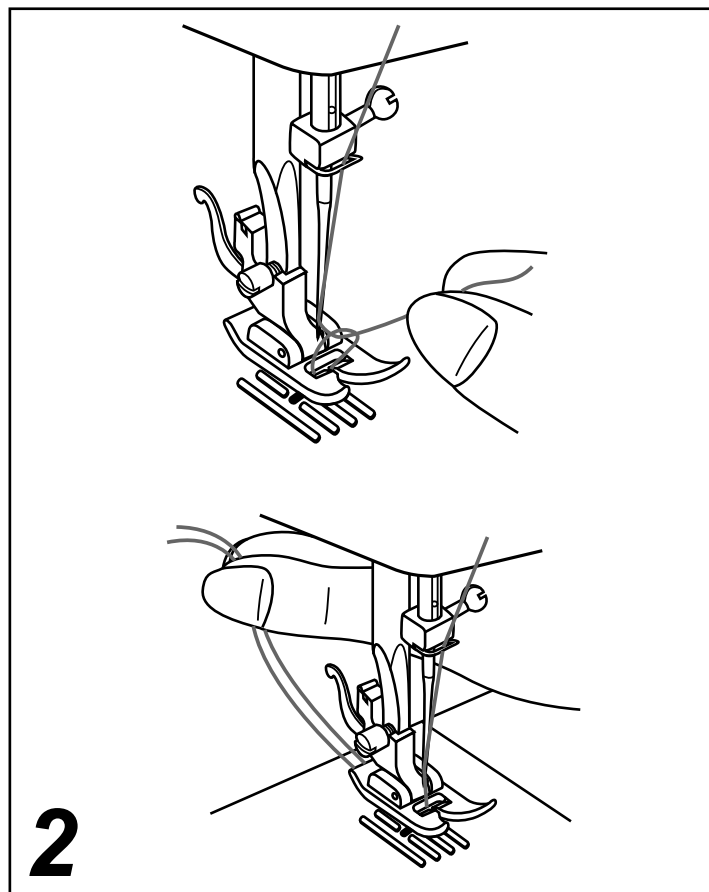
6 糸はしを針穴から 10cm くらい引き出しておきます。(引き出しにくい場合は、押え上げレバーを上げると引き出しやすくなります。) 余った糸はミシン本体左側面にある糸切りで切っておきます。

下糸の引き上げ方



1 押え上げレバーを上へ上げ、針に通した糸を左手で持ちます。

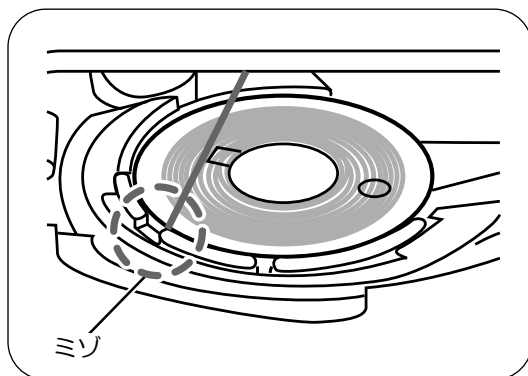
はずみ車を手前に回して、針をいったん一番下まで下げ、その後上げます。



2 上糸を軽く引っ張ると、下糸が引き出されます。上糸と下糸をそろえ、押えの下から後ろ側に 10cm くらい出しておきます。

〈正しくセットできたかを確認する方法〉

下糸を引き上げた後、下図の状態となります。ミゾにかかっていないと糸調子がとれず、きれいにぬえません。もう一度下糸をセットし直してください。



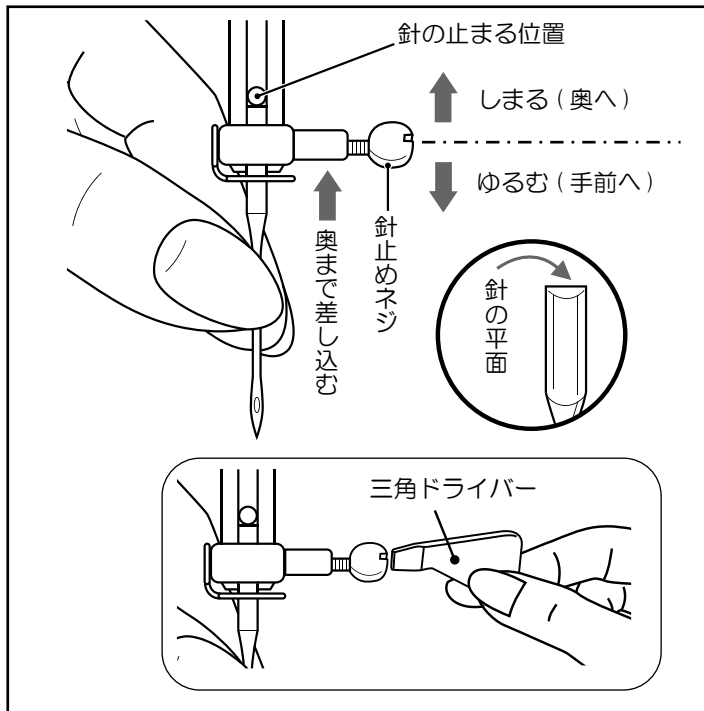
針の取り外し方と取り付け方

警告

ケガ防止のために

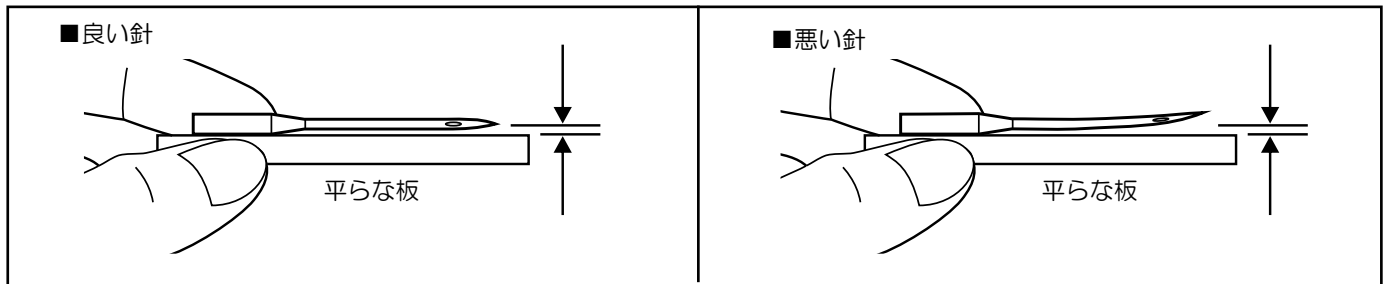
- 曲がった針や針先がつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 針は必ず家庭用ミシン針 (HAX1) をご使用ください。

針は、布地や糸に合わせて選びます。次のページの「布地に適した針と糸の選び方」を参照してください。



- 1** 電源を切ります。
- 2** はずみ車を手前に回して、針を一番上に上げます。
- 3** 押え上げレバーを下げます。
- 4** 針止めネジを三角ドライバーで手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。
- 5** 新しい針の裏面 (平らな面) を向こう側 (押え棒側) に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めネジを三角ドライバーで締め付けます。

取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



布地に適した針と糸の選び方

ミシン針は、布地や糸の太さによって使い分けます。

この表を目安に、布地にあった針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※必ずミシン専用の糸をご使用ください。

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガンジー、ボイル、絹布など。	スパン系糸 90 (ポリエステル) 綿 80～100 絹 60～100	9～11番
普通地	ギンガム、リンネル、さらさ木綿、サテン、薄手コーデュロイ、別珍、一般服地など。	スパン系糸 60～90 (ポリエステル) 綿 80～100 絹 60～100	11～14番
厚地	ギャバジン、ツイード、デニム、キルティング、コーデュロイ、ジーンズなど。	スパン系糸 60～90 (ポリエステル) 綿 80～100 絹 60～100	14～16番
伸縮性のある布地	ダブルニット、トリコット、スパンデックス、ジャージなど。	スパン系糸 50～90 (ポリエステル) 綿 80～100 絹 60～100	11～14番 ニット用針

- ・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ・ニット用針は伸縮性のある布地や目飛びしやすい布地に使用します。
- ・購入時は、14番の針がミシンに取り付けられています。

※ 綿や絹の糸は、経年劣化により切れやすくなります。


なるべく新しい糸をお使いください。(目安として製造より2年)

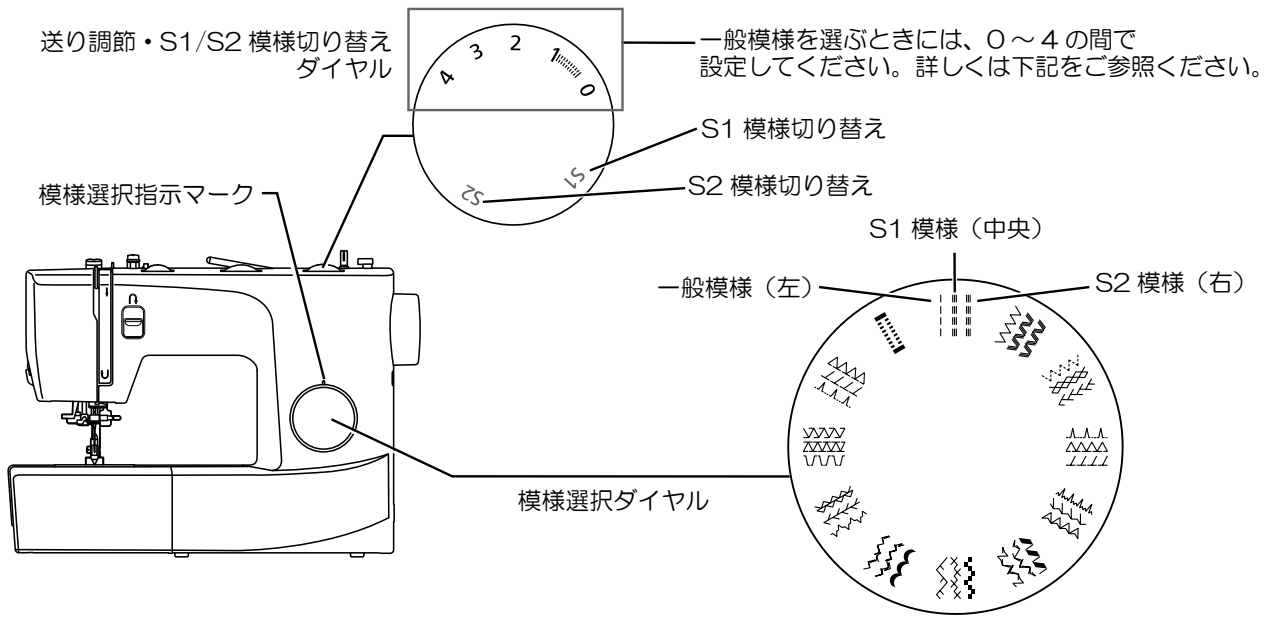
※ ナイロン透明糸およびメタリック糸、また手ぬい用の糸(キルト糸)などは使用しないでください。

<オススメ>

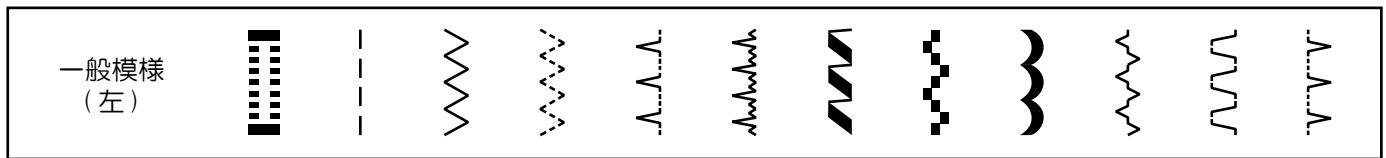
スパン系(素材:ポリエステル)の糸であれば、ほとんどの布地に対応でき、また長持ちします。

模様の選び方

 注意	<p>ケガ防止のために</p> <p>送り調節・S1/S2 模様切り替えダイヤルや、模様選択ダイヤルを回すときは、必ずミシンを止めて、針を布地から上げてください。針が布地に刺さっている状態では、針が折れ、ケガをする原因となることがあります。</p>
---	--

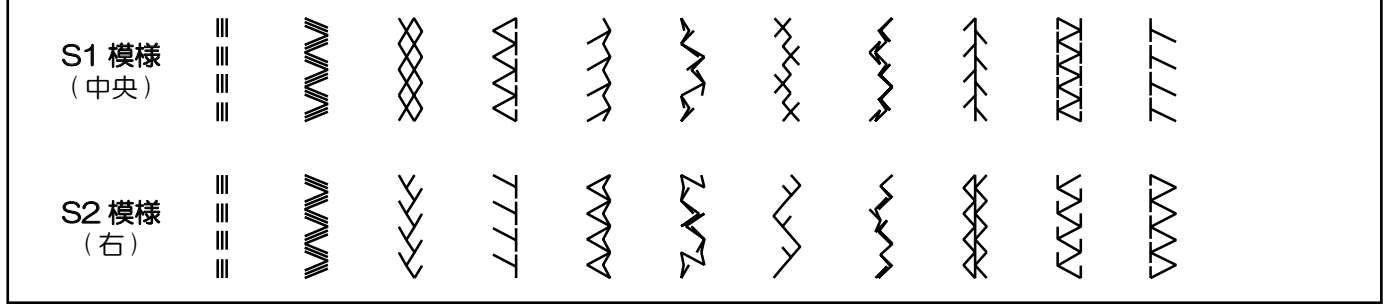


一般模様の選び方 一般模様は、ぬい目の長さの調節ができます。



- ① 模様選択ダイヤル一般模様 (左) の模様から、ぬいたい模様を選択します。
- ② 送り調節・S1/S2 模様切り替えダイヤルを 0～4 の数字の間に設定します。
※送り調節ダイヤルを「0」にセットすると、布を送らず、同じ場所をぬい続けてしまいます。

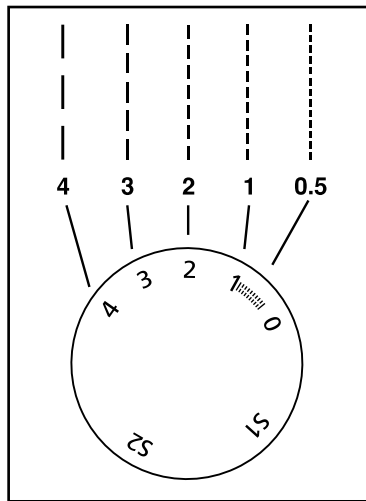
S1・S2 模様の選び方



- ① ぬいたい模様が、S1 (中央) もしくは、S2 (右) かを確認し、送り調節・S1/S2 模様切り替えダイヤルで、S1、S2 を切り替えてください。
- ② 模様選択ダイヤルで、希望の模様を選択してください。
※S1(中央)、S2(右) 模様は、ぬい目の長さは変更できません。

ぬい目の長さの調節方法

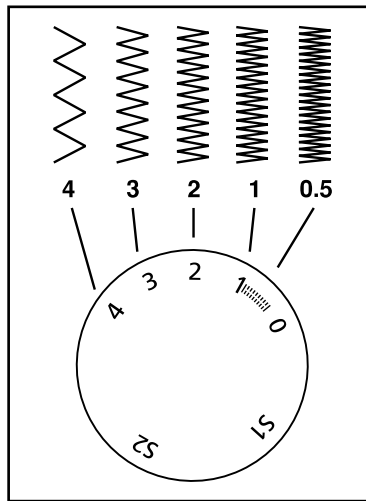
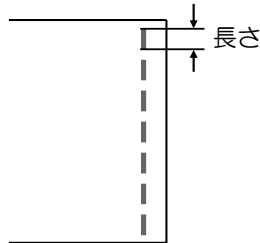
一般模様（左）は、ぬい目の長さの調節ができます。



直線ぬい

送り調節・S1/S2 模様切り替えダイヤルで、ぬい目の長さを 0.5 ～ 4mm で調節できます。

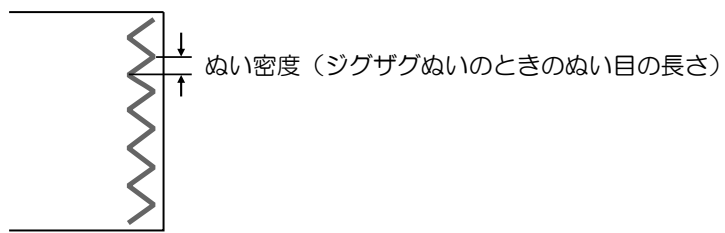
「0」にセットすると、布を送らず、同じ場所をぬい続けてしまいます。



直線ぬい以外の一般模様

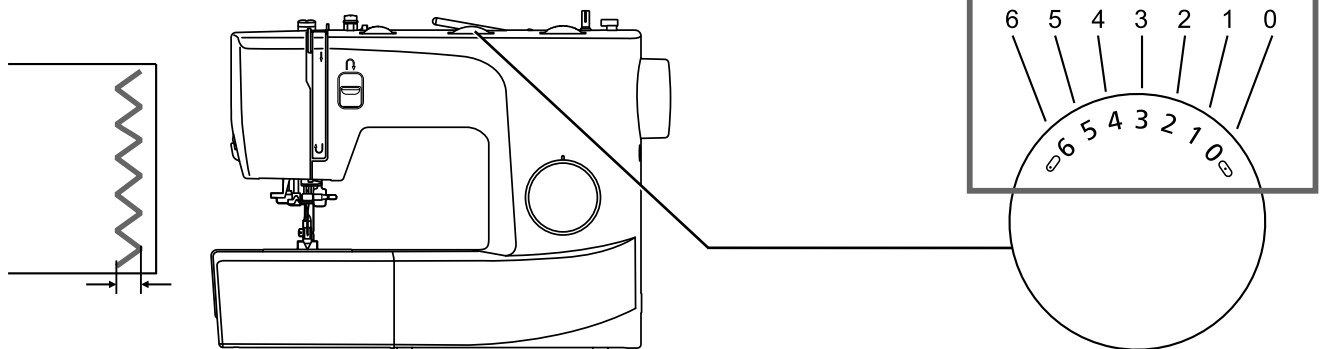
送り調節・S1/S2 模様切り替えダイヤルで、ぬい密度を 0.5 ～ 4mm で調節できます。

「0」にセットすると、布を送らず、同じ場所をぬい続けてしまいます。



ふり幅の調節方法

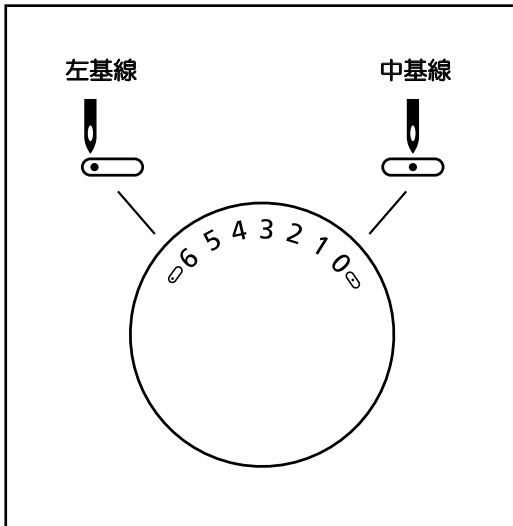
選んだ模様のふり幅を「0-6」の間で変更できます。
 数字が小さいと、ふり幅がせまくなり、大きいとひろくなります。
 ふり幅は、すべての模様で変更できます。
 （一般模様・S1・S2）



針位置の調節方法



直線ぬいをするときに、ふり幅調節ダイヤルを使うと、針位置の調節ができます。

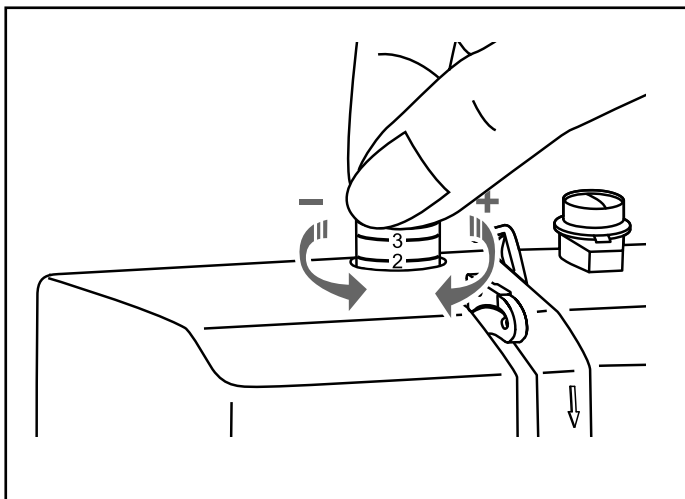


「0」のときは、中基線の位置です。

数字を大きくするにつれ、針は左に寄っていきます。

「6」のときは、左基線となります。

押え圧力の調節について



1 ミシン上部、左にある数字が書いてある白い突起は、押え圧調節つまみです。

押え圧力は出荷する前に既に設定されており、通常は調節する必要はありません。基本押え圧力設定は「2」になっています。

2 薄い布ややわらかい生地、ニットなどをぬう場合は、つまみを反時計回りに回して1～2の間に調節します。

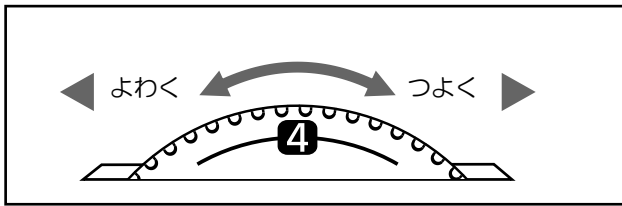
つまみは、1以下には回さないでください。
つまみが外れてしまう場合があります。

3 厚地などぬう場合には、つまみを時計回りに回し、2～3の間に調節してください。

つまみが回らなくなったら、それ以上無理に回さないでください。

こわれる原因となります。

上糸調子の合わせ方



1

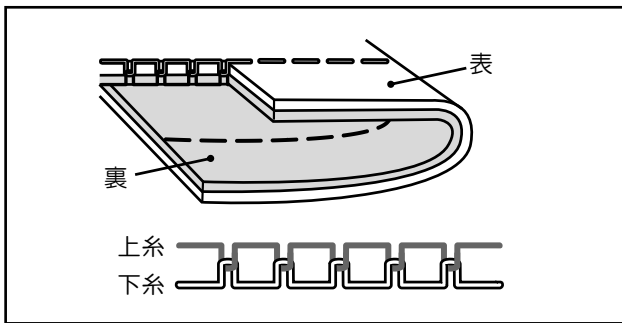
上糸調節ダイヤル

通常、上糸調節ダイヤルを「4」に合わせ、普通地用に使用される（# 50～60 の糸）でぬった場合に、糸調子が合うように設定されています。

糸調子は、上糸調節ダイヤルを回し調節します。

【糸調子を強くする】ダイヤルの数字を大きくする

【糸調子を弱くする】ダイヤルの数字を小さくする

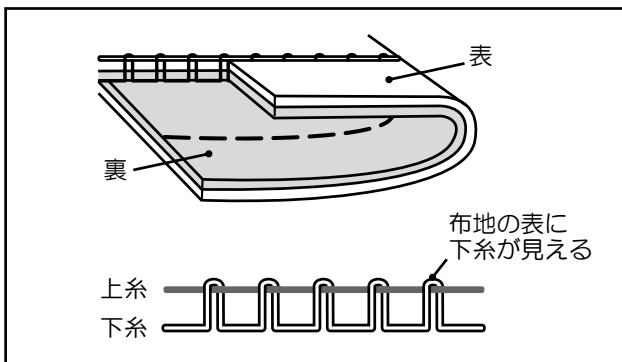


2

正しく調節されている場合

左図のように、上糸と下糸が布の中間で交差し、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていない状態が正常です。

布や糸によって、糸調子がうまくとれない場合や、ギャザー寄せなどをするときには、上糸調節ダイヤルを回して、糸調子を調節してください。

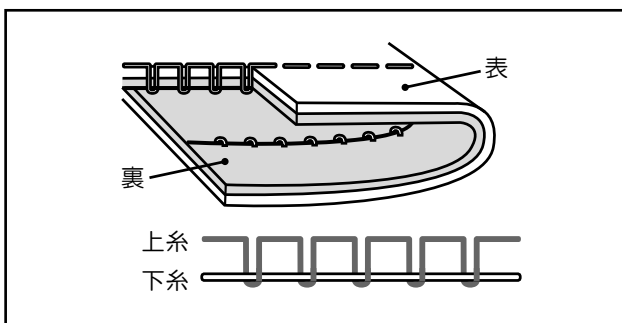


3

上糸が強い場合

布の表の糸が1本になっているときは、ボビンが正しくセットされていません。正しくセットし直してください。

または、上糸の糸調子が強いので、上糸調節ダイヤルの数字を小さくして、糸調子を弱くしてください。



4

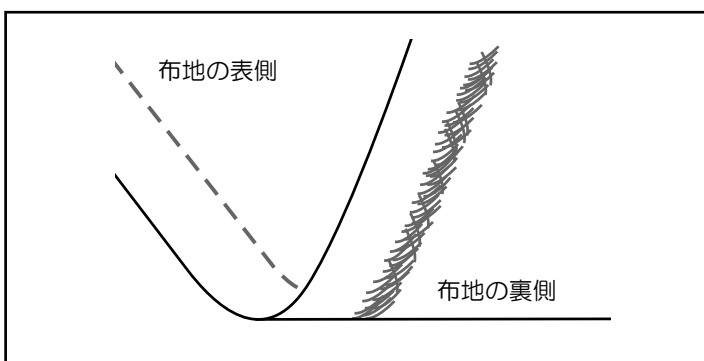
上糸が弱い場合

布の裏側の糸が1本になっているときは、上糸の糸調子が弱いので、上糸調節ダイヤルの数字を大きくして、糸調子を強くしてください。

ダイヤルを回しても糸調子が合わない場合には、上糸のかけ方が誤っている場合があります。

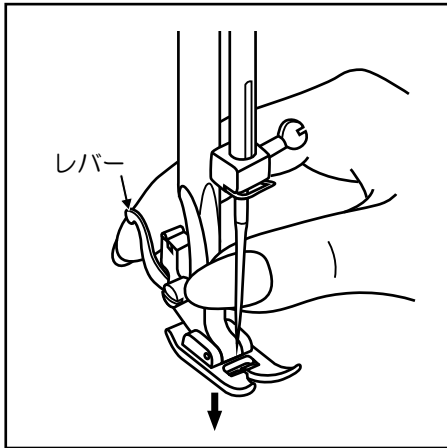
一度上糸を外し、「取扱説明書」をご確認いただき、正しくかけ直してください。

布地の裏側がタオル地のようになるのは



左図のように、布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のように糸が出ているのは、上糸をセットする際に、押え上げレバーを下げたまま糸かけをしてしまっていたり、上糸調子が弱い場合に起こる現象です。「取扱説明書」をご確認いただき、上下糸を正しくかけ直してください。

押えの取り外し方と取り付け方

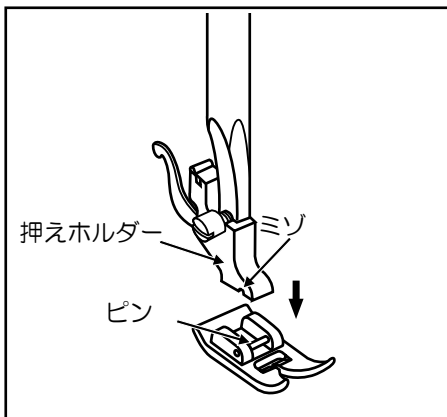


1

押えの取り外し方

押え上げレバーを上げ、押えを上げます。

押えホルダーのレバーを手前に押し、押えが外れます。



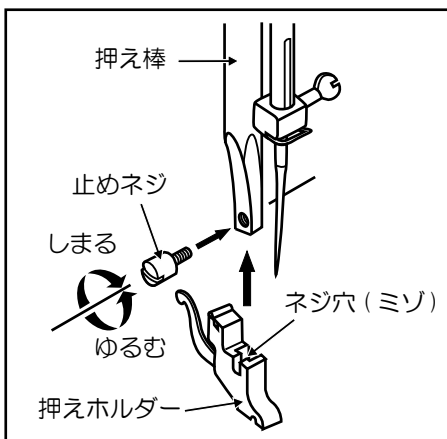
2

押えの取り付け方

交換したい押えのピン部分を押えホルダーのミソの真下におきます。

静かに押え上げレバーを下ろし、押えのピンを押えホルダーのミソに入れます。

押えホルダーの取り外し方と取り付け方



1

押えホルダーの取り外し方

はずみ車を回して、押えを上げます。

押えを取り外し、ドライバーを使い、止めネジを奥に回しゆるめて、押えホルダーを取り外します。

2

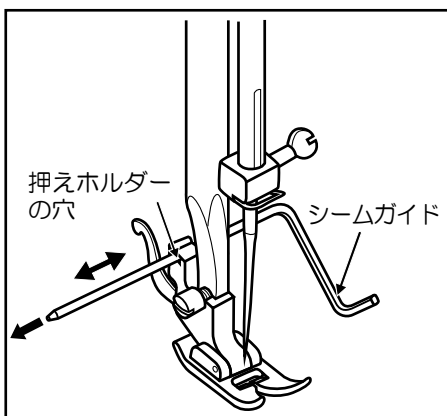
押えホルダーの取り付け方

押えホルダーのネジ穴と、押え棒のネジ穴の高さを合わせ止めネジで取り付けます。止めネジはドライバーで手前に回して締め付けます。

※ 押えの交換は、押えホルダーを取り付けたまま行います。

取り外す必要はありません。

シームガイドの取り付け方



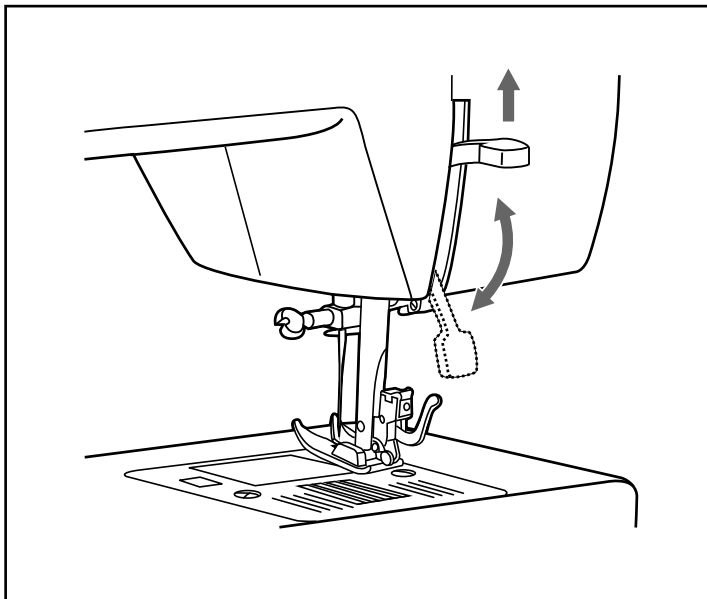
シームガイドの取り付け方

シームガイドは、取り付けることで、平行のステッチや均一なステッチをぬうためのガイドになります。

押えホルダー後ろ上部にある穴に右側から差し込み取り付けます。

ガイドを左右させることで、ガイドとなるステッチ幅の変更ができます。

押え上げレバー

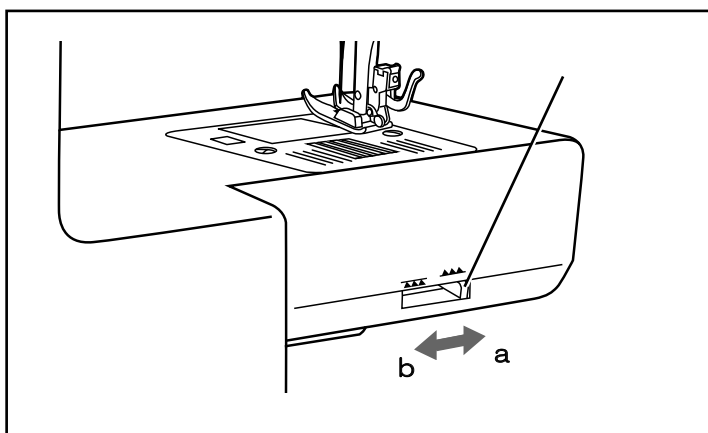


布を何枚か重ねてぬうときや、厚い布地をぬうとき、これらの布を押えの下に入れやすくするため、押えをさらに上に上げることができます。

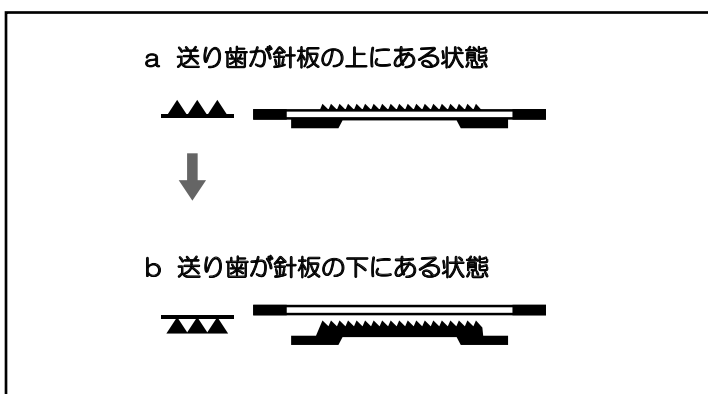
※このとき、レバーは固定されません。

手を放すとレバーは普通に上げた位置に戻ります。

ドロップフィードレバーの使い方（送り歯の上げ下げ）




本体背面右下に、送り歯を上げ下げできるドロップフィードレバーがあります。



針を上にした状態で、レバーをスライドして針板より下の位置（b）方向“▲▲▲”にセットすると、送り歯が針板上面より沈みます。

また、レバーを針板より上の位置（a）方向“▲▲▲”にセットしてはずみ車を回すと、送り歯が針板上面より出てきます。

直線ぬい

 注意	<p>ケガ防止のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・針先には十分注意してください。 ・布地は、無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が折れ、ケガをする恐れがあります。
---	--

一般模様 S1またはS2



模様



ジグザグ押え

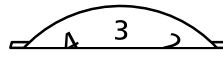
針位置の調節



0~6

ふり幅調節ダイヤル

一般模様のみ (S1/S2を除く)



2~4

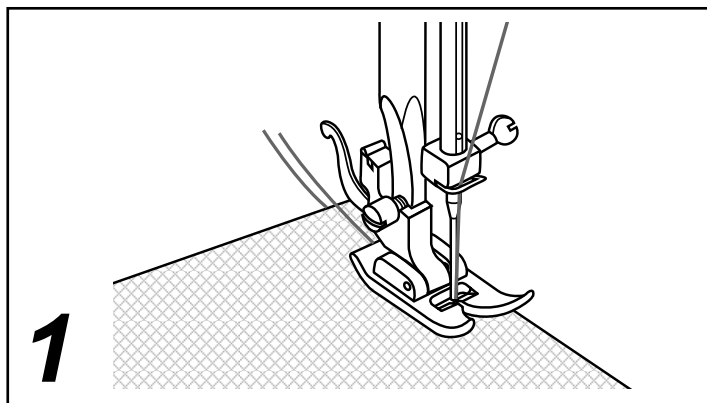
送り調節ダイヤル

一般模様の直線ぬいのぬい目の長さの調節は、送り調節ダイヤルで変更できます。(23 ページ参照)
S1・S2 模様の三重ぬいは変更できません。

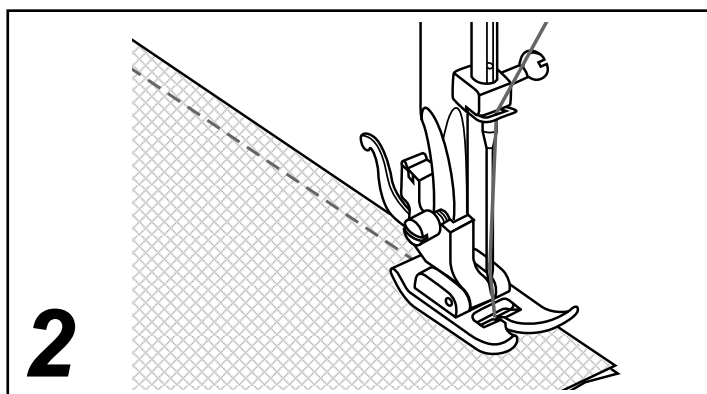
普通は目盛の2~4が標準ですが、布地の厚さや糸の太さ、ぬう目的などで変わります。

試しぬいをして調節してください。

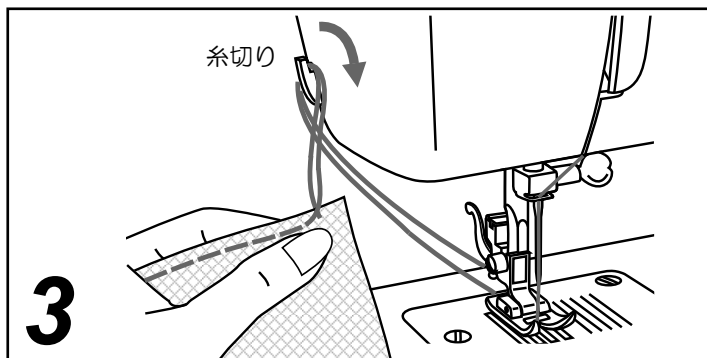
針位置の調整はふり幅調節ダイヤルで行います。(24 ページ参照)「0」位置が中基線です。



1 布地を押えの下に置き、ぬい始める位置では
はずみ車を手前に回し、針を刺してから、押え
上げレバーを下げ、押えを下ろします。
フットコントローラーを足で踏み、スタート
させます。
布地に軽く手をそえます。ぬっている間は布
地を無理に引っ張らないようにします。

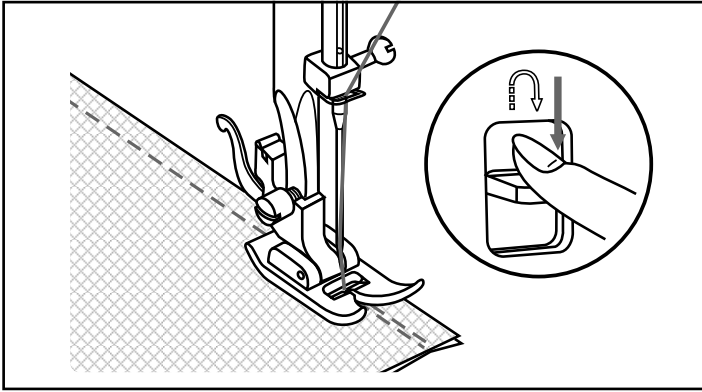


2 ぬい終わったらフットコントローラーから足
を放して、ストップします。
はずみ車を手前に回し、針を一番上に上げま
す。



3 押えを上へ上げ、布地を取り出します。
ミシン本体左側面にある糸切りに糸をかけて
手前に引くと糸が切れます。

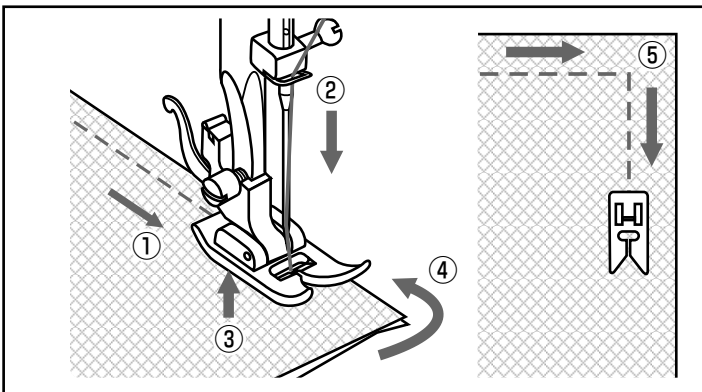
返しぬい



フットコントローラーを踏みながら、返しぬいレバーを押し下げます。押し下げている間は、返しぬいができます。

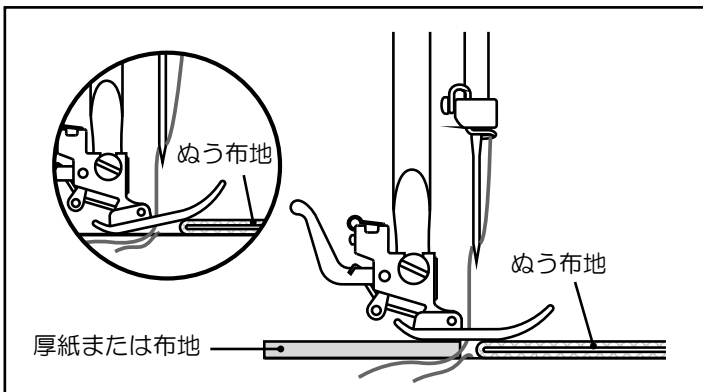
ぬい始めとぬい終わりに3～5針返しぬいをしておく、ぬい目がほころばず、丈夫になります。

ぬい方向のかえ方



- ① 布地の角まで来たら、フットコントローラーから足を放します。
- ② はずみ車を手前に回し、針を下げ、布に刺します。
- ③ 押え上げレバーを上げ、押えを上げます。
- ④ 針を刺したまま布地を回し、ぬい方向にセットします。
- ⑤ 押えを下げて、ぬい始めます。

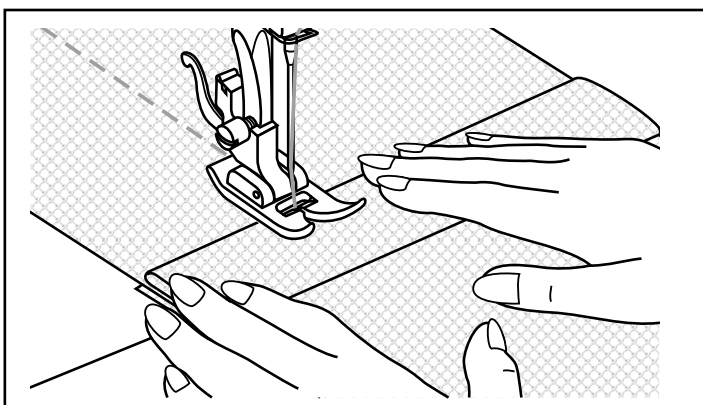
厚地のぬい始め



厚地の布はしからぬい始めるときに、押えが傾いてスムーズにぬえないことがあります。

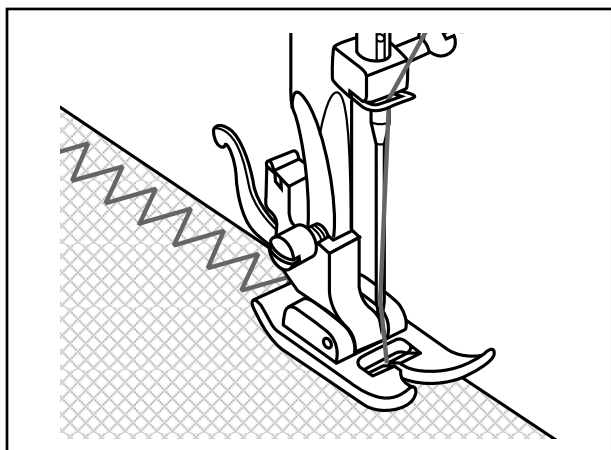
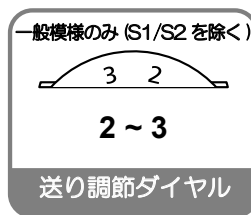
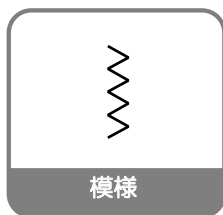
このようなときは、押えの下に、同じ厚さの布や厚紙をあてがい、段差をなくしてからぬい始めます。

段ぬい



布地が重なって、急に厚くなった部分をぬうときは、手で布の送りを助けながらぬいます。

ジグザグぬい



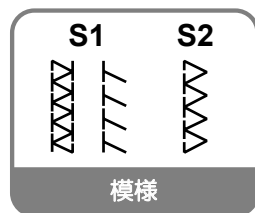
ジグザグぬいの糸調子は、直線ぬいに比べ、上糸をやや弱めにし、裏に上糸がでるくらいが適当です。

送り調節ダイヤルの目盛を「0」に近づけるにしたがい、密着したジグザグぬいになります。

布に応じて送り調節ダイヤルで、ぬい目の長さやふり幅を調節してください。

調節方法は 23 ページをご確認ください。

たちめかがり



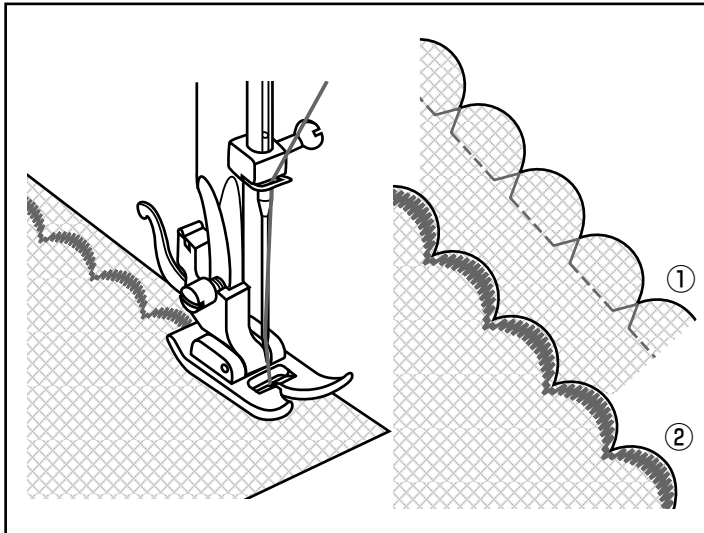
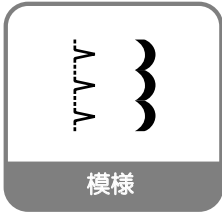
※これらの模様は、ぬい目の長さは変更できません。

注意 ふり幅を“4”より小さくしないでください。針と押えが当たり、危険です。

中厚ものの布地のたちめかがりを行う場合、上記の模様が有効です。


布に応じてふり幅調節ダイヤルで、4～6の間でふり幅を調節してください。

飾りぬい



① シェルタック


布はしの飾りぬいに使います。薄手の伸縮性のある布に適しています。

模様選択ダイヤルは一般模様の“”にセットします。

針が右振れしたときに、生地のはしにくるように布地をセットしてください。

② スカラップぬい

布はしに沿って、デリケートな仕上げをしたいときに使います。

模様選択ダイヤルは一般模様の“”にセットします。

布の表から布はしを1 cmくらい残してぬいます。

糸を切らないように、ぬい目の外側の布をぬい目にそって切り落とします。

まつりぬい (ブラインドステッチ)



スカートやズボンの裾は、次の手順でまつります。

<p>1 裾側</p> <p>できあがり線</p> <p>裏 表</p> <p><横から見た図> 厚い布地 普通地</p> <p>1cm 折り返し ておく</p>	<p>2</p> <p>裏 表</p>
<p>3</p> <p>0.5mm しつけ</p> <p>布端</p> <p>裏 表</p> <p><横から見た図> 厚い布地 普通地</p>	<p>4</p> <p>しつけ</p> <p>裏 表</p>

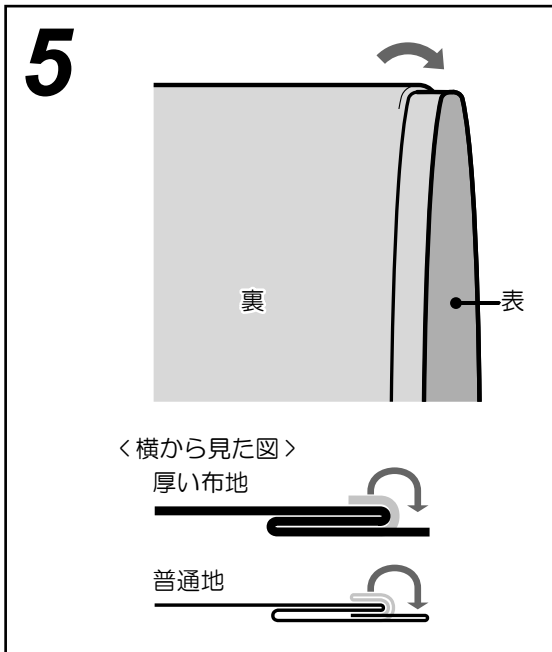
1 裾上げするスカートやズボンを裏返します。

2 できあがり線で布を表に戻し、アイロンをかけます。

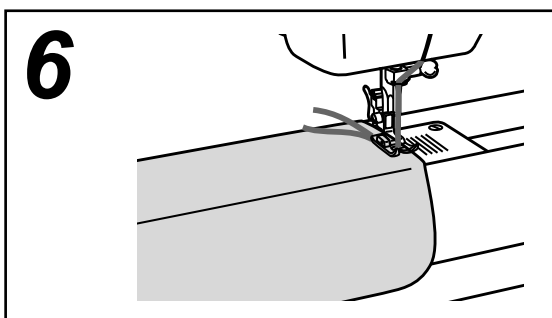
3 布はしから約0.5cmのところにチャコペンなどで印を付け、しつけをします。

4 しつけをしたところから、内側へ折り込みます。

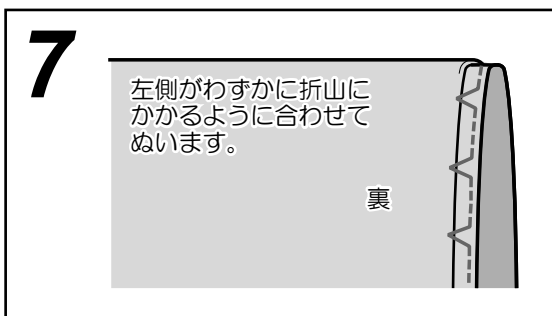
まつりぬい（ブラインドステッチ）



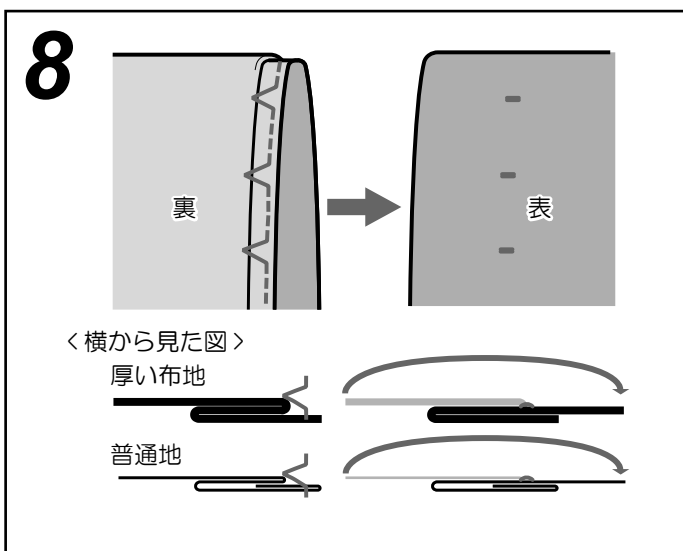
5 布はしを開きます。



6 ミシンをフリーアームにし、アームに布地を入れ、布地を回すことができるのを確認してください。

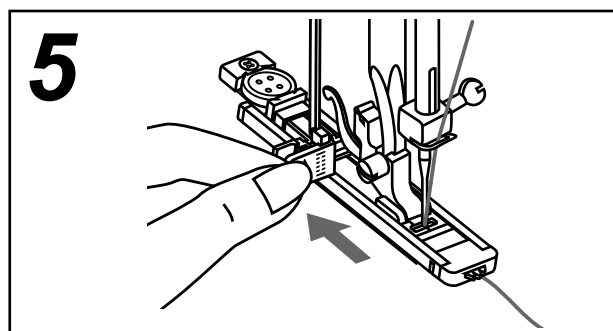
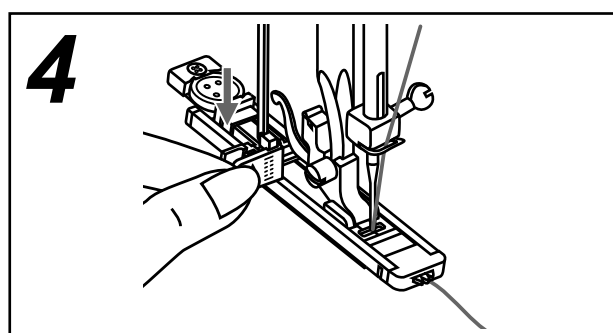
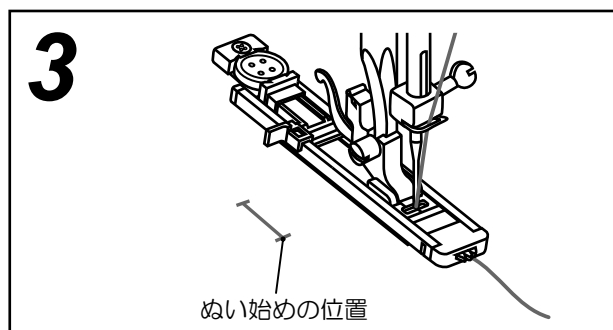
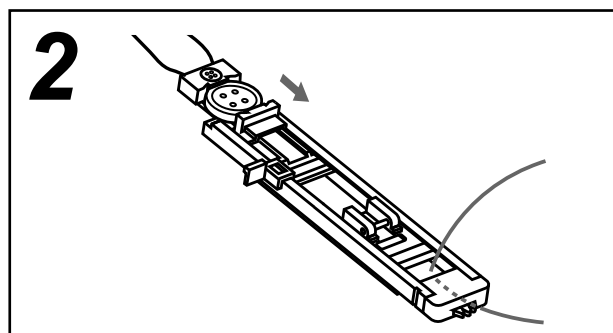
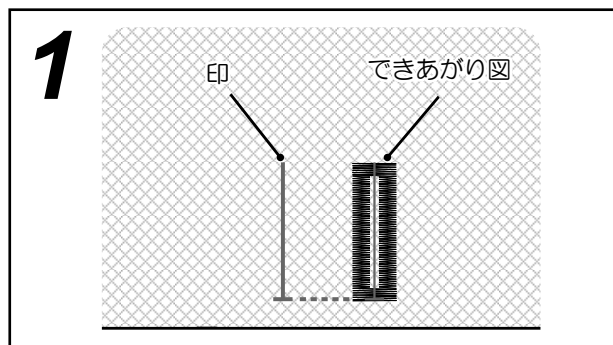
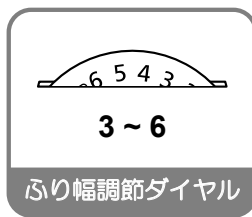
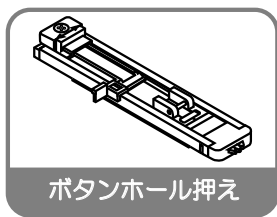
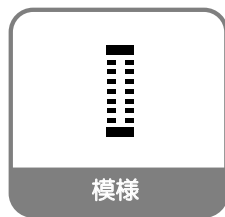


7 はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。そのときに針が折山にわずかに刺さるように布の位置を合わせてぬいます。



8 しつけをほどき、布地を表に返します。

ボタンホールのぬい方



ボタンホールを作る前に、必ずぬうものと同じ生地(残り布)で試しぬいをしてからぬってください。

1 ボタンホールをつくる位置にチャコペンなどで印を付けてください。

「ボタンの直径 + 厚み」が3 cmまでのボタンホールができます。

送り調節ダイヤルを “” の間に合わせます。

布地によって、ぬい目の長さとしり幅の調節が必要です。

2 ボタンホール押えの後ろを引き、開いた部分にボタンを乗せ、はさみます。

通常ついている押えを取り外し、上糸をボタンホール押えの手前の穴に通します。

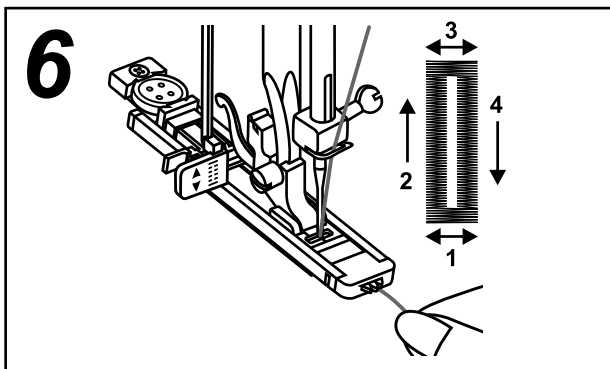
3 ボタンホールの押えを取り付け、布を入れ、ぬい始めの位置に針を刺して、押えを下げてください。上糸は押えの下に通し、手前に出しておいてください。

4 ボタンホールレバーを止まるまで下げます。

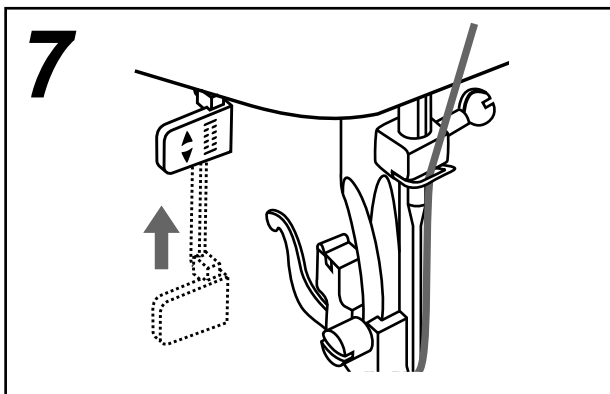
5 ボタンホールレバーを後ろに止まるまで軽く押しします。

※ ボタンホールをつくる度に、スタートの前に必ず後ろへ押してください。

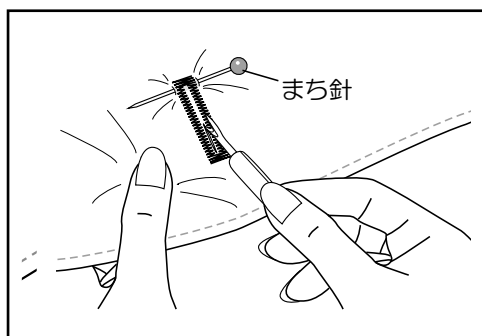
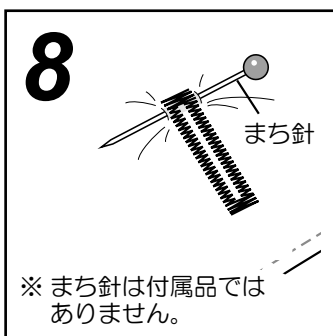
ボタンホールのぬい方



6 上糸を軽く持ち、ぬい始めてください。ぬい始めたら手を放してください。
 手は布地に軽くそえてください。
 ボタンホールは、図中1～4の順序で自動的にぬえます。
 4の部分がぬい終わったら（布が止まります。）ミシンを止めます。

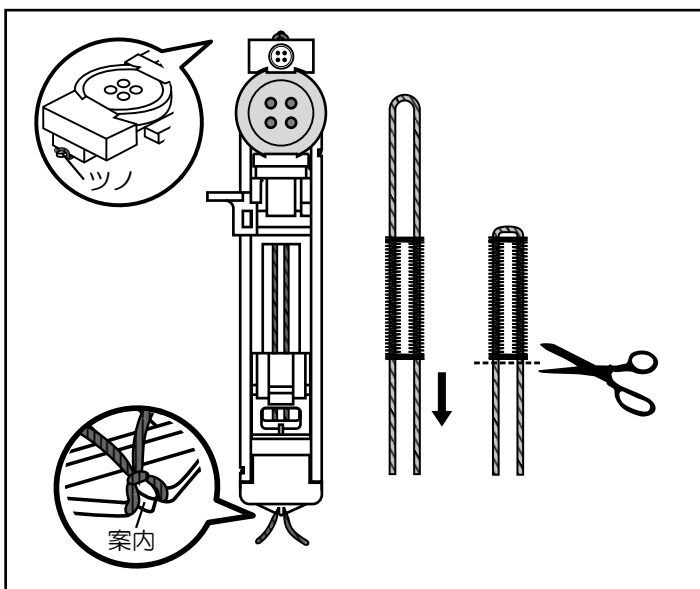


7 ぬい終わったら、ボタンホールレバーを引き上げて、元の位置に戻します。



8 付属のリッパーでボタンホールを切り開きます。
 ※ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺してから開きます。
 ※まち針は付属品ではありません。

⚠ 注意 ケガ防止のために
 リッパーで穴を開けるときの、リッパーの先端に手や指を置かないでください。
 すべったときにケガをする恐れがあります。



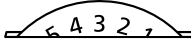
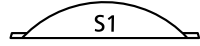


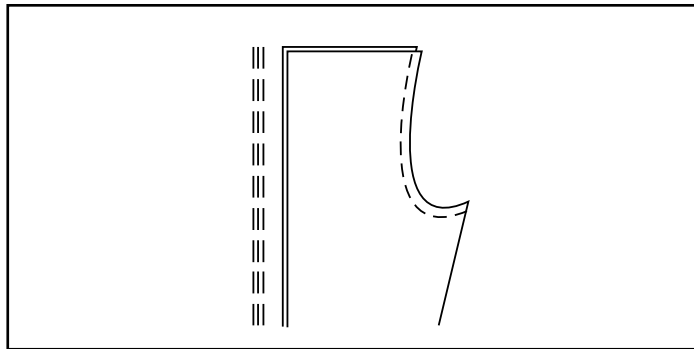
＜芯入りボタンホールの作り方＞

- 伸びる布地にボタンホールをぬうときは、ボタンホールに芯ひもを入れると丈夫になります。
- 芯ひもの輪を押えの後ろ側にあるツノにかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の案内にはさみ結びます。
- 通常のボタンホールと同じ手順でボタンホールを作ります。
- ボタンホールができれば、左側の芯ひもを引いてたるみをなくし、余分な芯ひもを切ります。

伸縮強化ぬい

直線とジグザグの三重ぬいです。丈夫で伸縮性のあるぬい目なので、力がかかってほつれやすい部分や、デニムなどの丈夫な布地のぬい合わせに最適です。

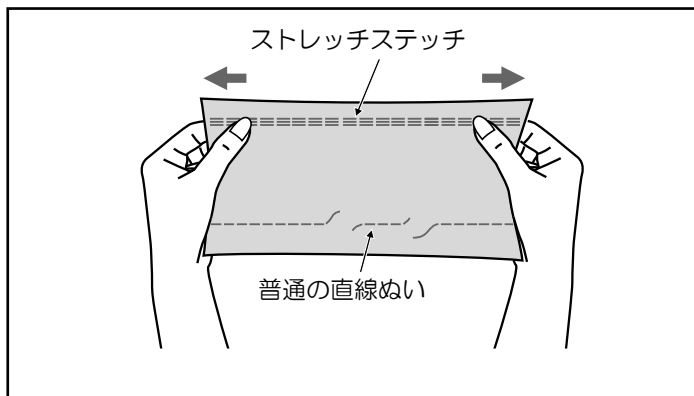
 <p>模様</p>	 <p>ジグザグ押え</p>	<p>針位置の調節</p>  <p>0~6</p> <p>ふり幅調節ダイヤル</p>	 <p>S1 または S2</p> <p>送り調節ダイヤル</p>
---	---	---	---



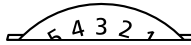
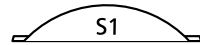


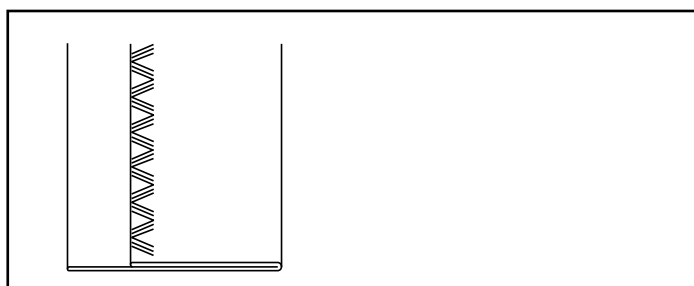
● トリプルステッチ (三重ぬい)

ふり幅調節ダイヤルで、針位置の調節ができます。(24 ページ参照)

※ぬい目の長さの調節はできません。



 <p>模様</p>	 <p>ジグザグ押え</p>	<p>針位置の調節</p>  <p>0~6</p> <p>ふり幅調節ダイヤル</p>	 <p>S1 または S2</p> <p>送り調節ダイヤル</p>
---	---	---	---

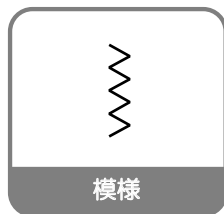


● 三重ジグザグぬい

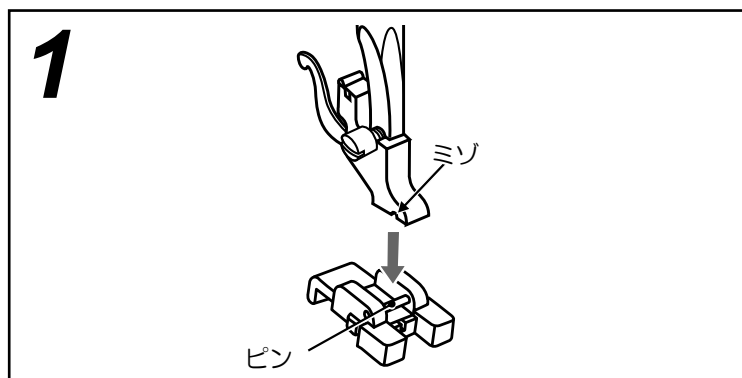
ふり幅調節ダイヤルで、ふり幅の調節ができます。(23 ページ参照)

※ぬい目の長さの調節はできません。

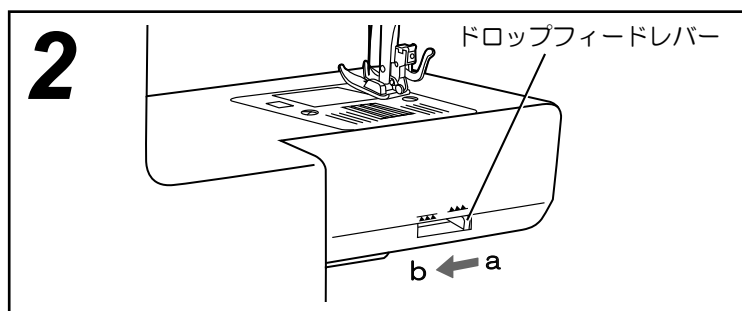
ボタン付け



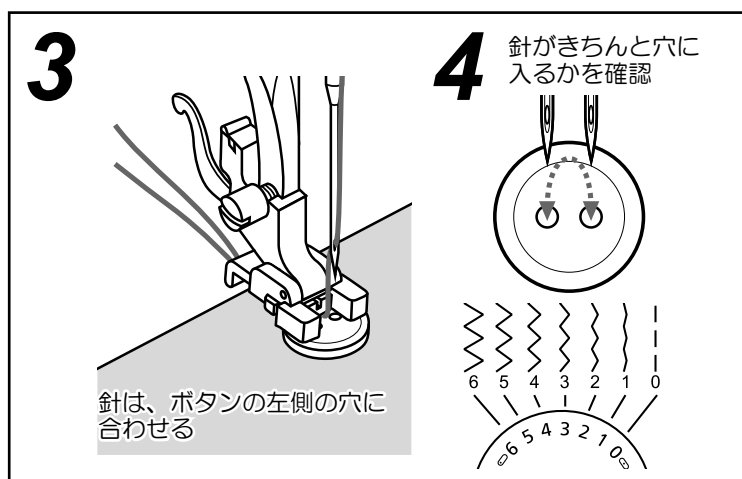
送り調節ダイヤルは「0」にします。



1 ボタン付け押えに付け替えます。

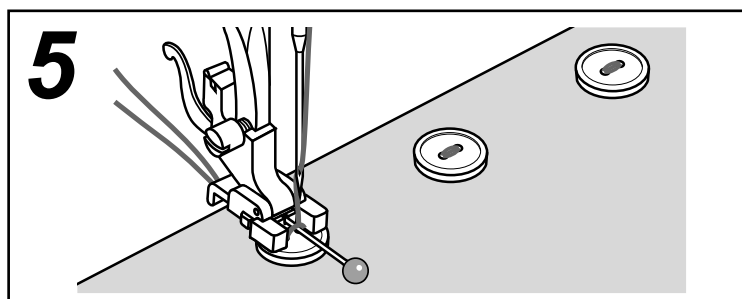


2 ドロップフィードレバーを（b）方向に移動し、送り歯を下げます。（27ページ参照）

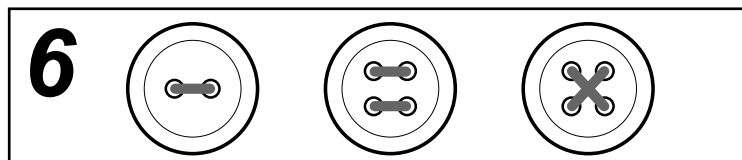


3 シグザグぬいを選択し、はずみ車を手前に回して、針が左に来たときに、ボタンの左側の穴に下りるようにして押えを下げます。

4 ボタンの左右の穴の中心に針が落ちるように、ふり幅調節ダイヤルでシグザグの幅を調節してから、ぬい始めます。

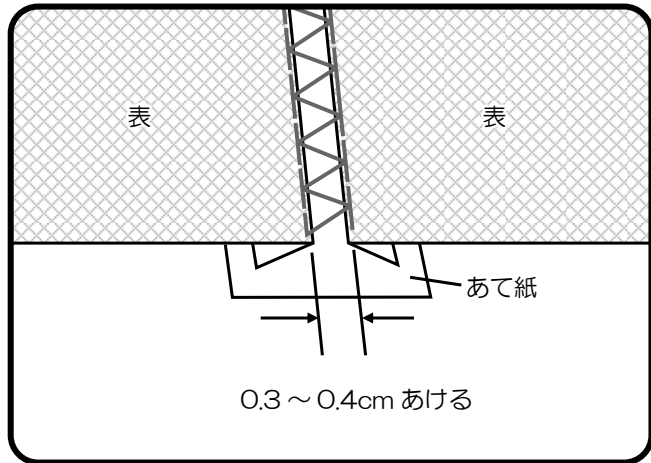
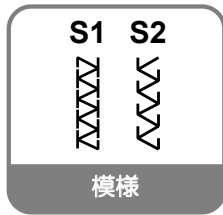


5 付けるボタンに余裕を持たせたいときは、ボタンの上にまち針を乗せてぬいます。
※ 数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。



6 一度にぬえるのは2つの穴だけです。4つの穴を持ったボタンについては、先に2つの穴をぬい、それから残りの2つの穴をぬいます。

ファゴティング



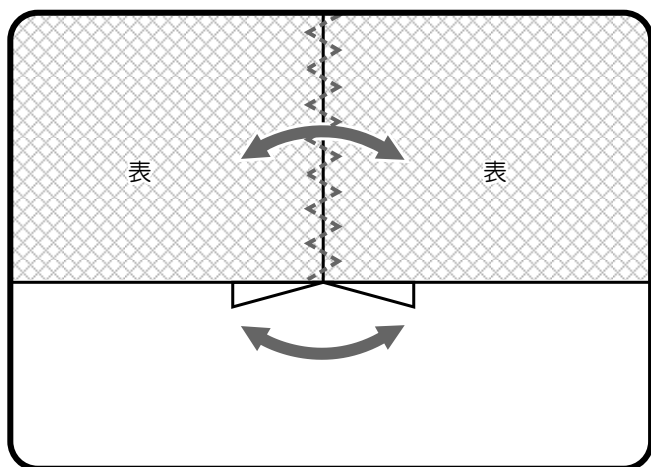
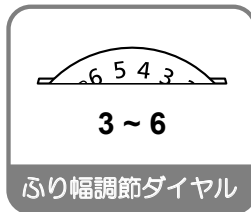
1 布はしと布はしの間隔を 0.3 ~ 0.4cm あけて、裏にあて紙をします。

2 布の表から、間隔の中央を中心にしてぬいます。

3 あて紙を取ります。

※ぬい目の長さの調節はできません。

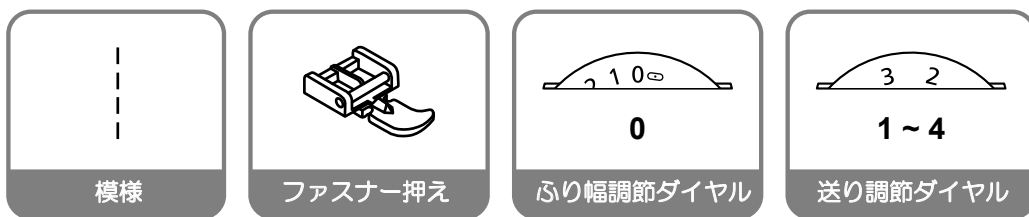
パッチワーク



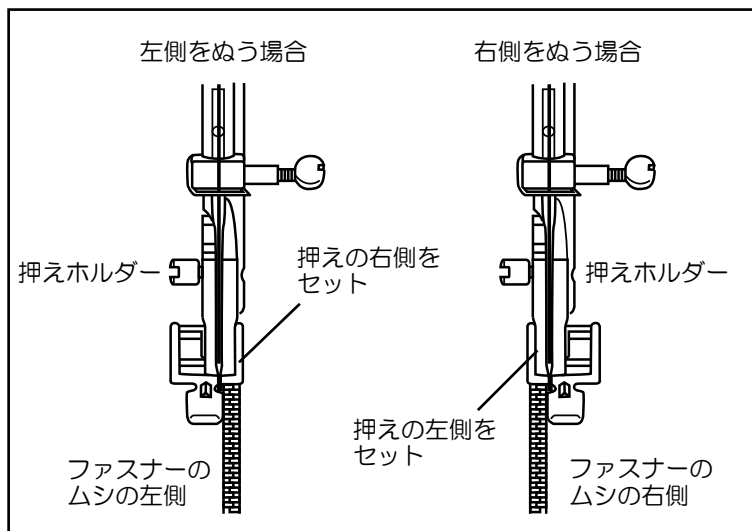
1 布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。

2 布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。

ファスナー付け（別売品）



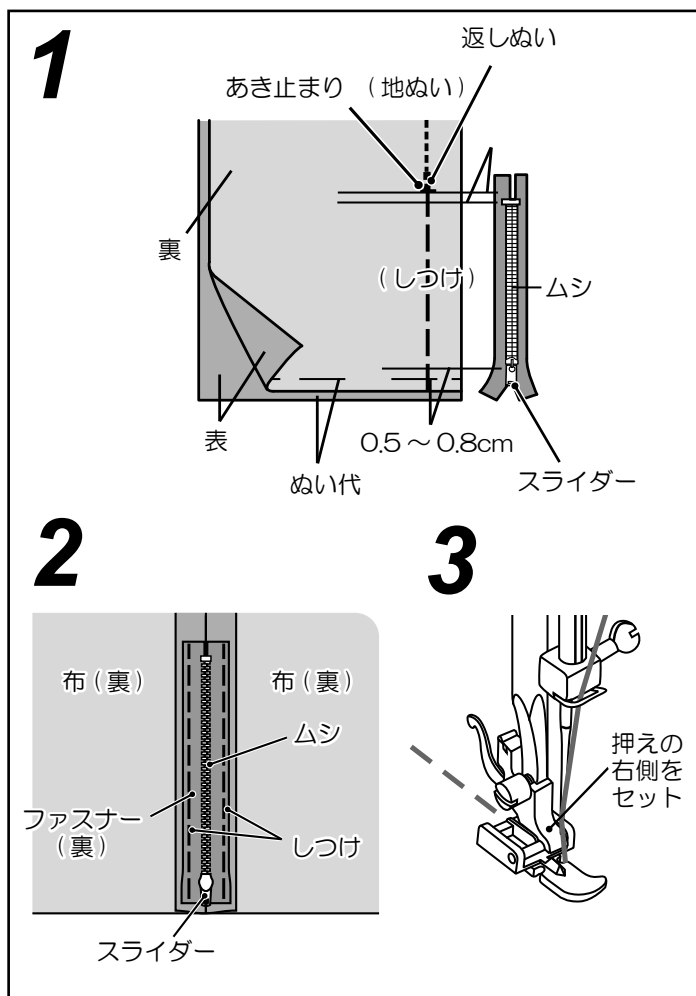
ファスナー押えをご使用の際は、必ず一般模様の直線を選び、ふり幅調節ダイヤルを「0」（中基線）にしてください。それ以外では、針が押えに当たって折れ危険です。



ファスナー押えは、ぬう側を合わせて、左右どちらかにセットします。

ファスナーのムシの左側をぬうときは、押えの右側のミゾを押えホルダーにセットしてください。ファスナーのムシの右側をぬうときは、押えの左側のミゾを押えホルダーにセットしてください。送り調節ダイヤルで、送り目の長さを調節します。

ファスナーの付け方には、「つきあわせ」と「脇あき」があります。



●つきあわせ

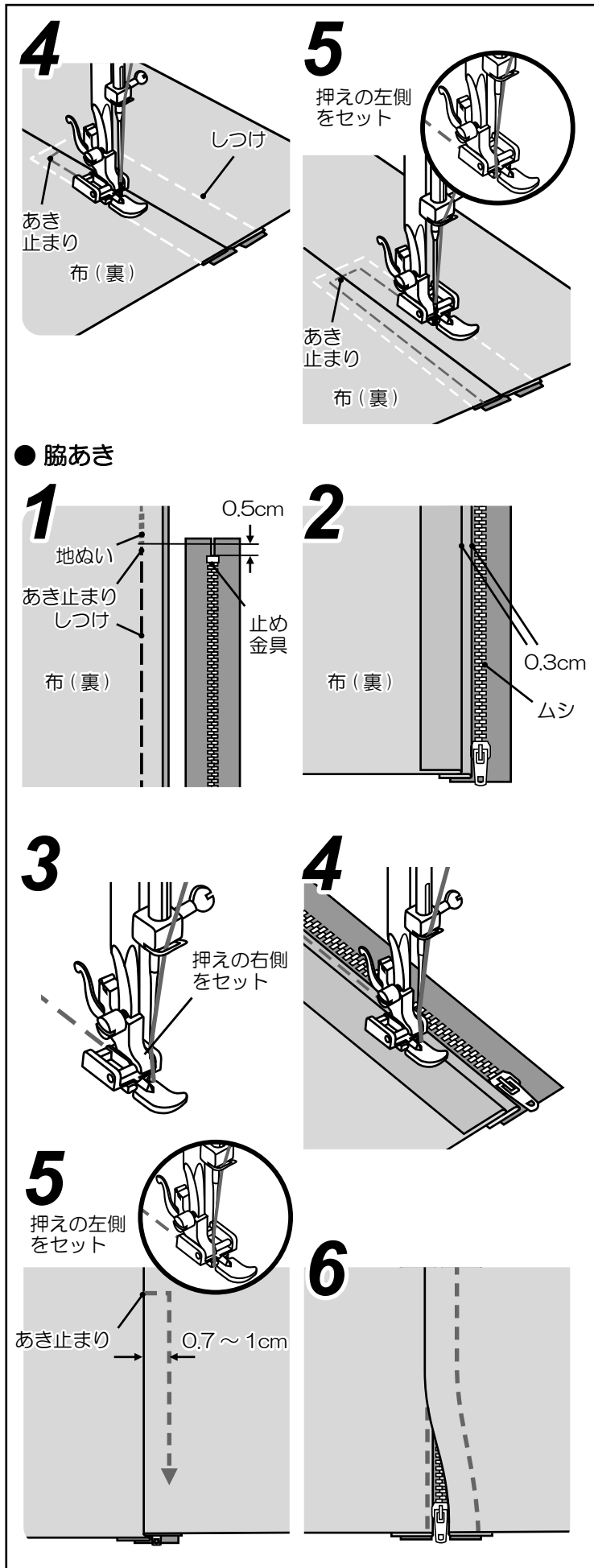
1 中表にして布を合わせ、図のようにあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

※ 数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

2 ぬい代をわり、ぬい目にファスナーのムシの中心を合わせて、しつけします。しつけはほどきやすいようあらめでぬいます。

3 次にファスナーのムシの左側をぬいます。ファスナー押えの右側を押えホルダーに取り付けます。

ファスナー付け (別売品)



4 ファスナー左側を、布の合わせ目から0.7～1cm離して、あき止まりからぬいます。

5 ファスナー押えのミゾを左側にセットし、あき止まりの右側もぬい、しつけをとります。右側も同様に布の合わせ目から0.7～1cm離してぬいます。

●脇あき

1 中表にして布を合わせ、図の様にあき止まりまで地ぬいをします。あき部分はしつけをします。

2 ぬい代をわり、下の布のぬい代を0.3cm出して折り目を付け、折り山をムシに合わせます。

※数値はあくまでも目安であり、布の厚さや作品により変わります。

3 次にファスナーのムシの左側をぬいます。ファスナー押えの右側を押えホルダーに取り付けます。

4 ファスナーの左側を、あき止まりからぬいます。押えがファスナーのムシに乗らないようにしてぬいます。

5 ファスナー押えのミゾを左側にセットし、上の布を開き、あき止まりと右側をぬいます。右側の布の折り目から、0.7～1cm離してぬいます。

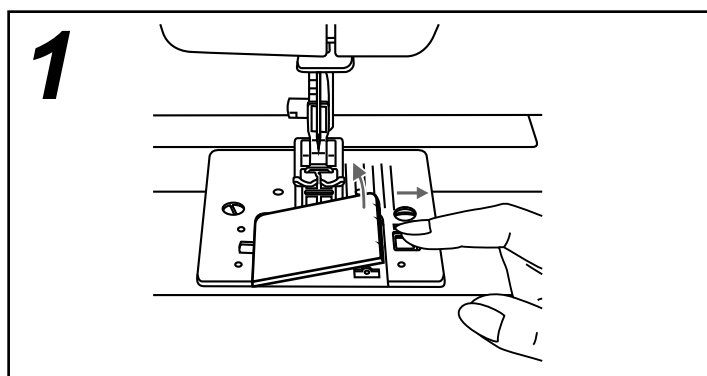
6 スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りをぬいます。

ミシンのお手入れ



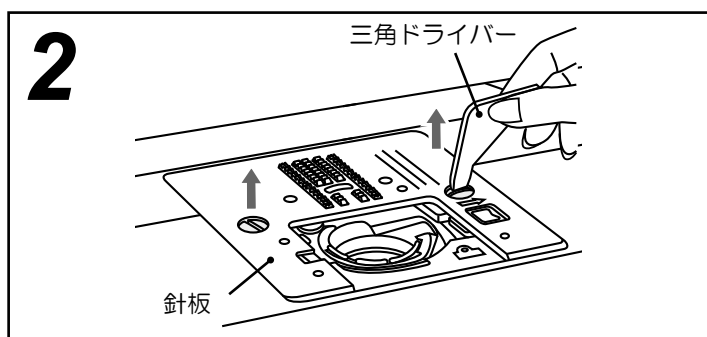
注意

ケガ防止のために
お手入れの際は、必ず電源プラグを抜いてください。

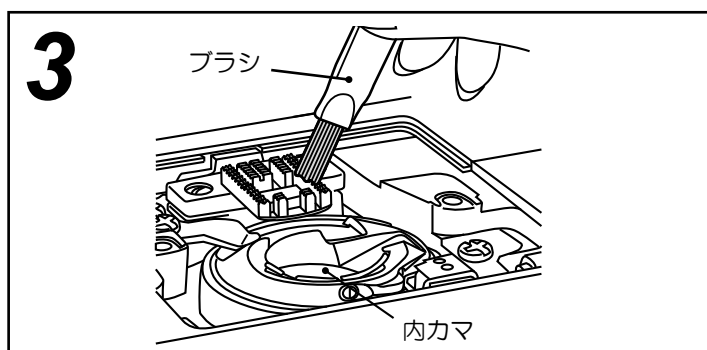


● 内カマと送り歯の掃除

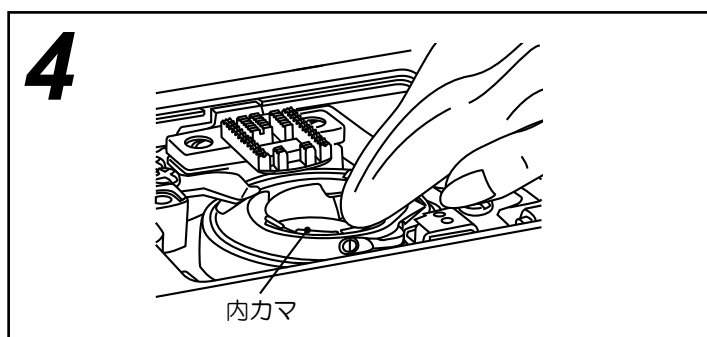
1 カマカバーを外して、ボビンを取り出します。



2 針板の止めネジ（2ヶ所）を、付属の三角ドライバーで左回りに回して外し、針板を取り外します。



3 ブラシで送り歯に付いた糸クズやほこりを掃除します。



4 内カマをブラシで掃除して、布などで軽くふきます。

掃除が終わったら、針板を取り付け、止めネジ2ヶ所を三角ドライバーでしっかりと止め、カマカバーを取り付けてください。

LED ライトの交換

ミシンに装備されているLEDライトは非常に長持ちなので、通常交換の必要はありません。
もし万が一、交換の必要が生じた場合には、お買い上げのお店にご相談ください。

故障かな・・・というときは

問題	原因	解決方法
ミシンが動かない	・電源が入っていないとき。	・電源を入れてください。
	・下糸巻き軸が右へ押されているとき。	・下糸巻き軸を左に戻してください。
	・内カマに糸やゴミがたまっているとき。	・内カマの掃除をして、糸やゴミを取り除いてください。
ぬえない	・糸かけが間違っているとき。	・使用の手びきを確認して、上下糸をかけ直してください。
	・糸立棒に糸がからまっているとき。	・糸コマを外し、糸立棒にからまった糸を外してください。
	・針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	・新しい針に交換してください。
	・針のサイズが布に合わないとき。	・糸と布に合う針に交換してください。
	・目的の違う押えを使っているとき。	・正しい押えに交換してください。
布を送らない	・送り歯が下がっているとき。	・ドロップフィードレバーを使い、送り歯を上げてください。
上糸が切れる	・糸かけが間違っているとき。	・使用の手びきを確認して、上下糸をかけ直してください。
	・糸案内台に糸をかけているとき。	・使用の手びきを確認して、正しく上糸をかけ直してください。
	・糸立棒に糸がからまっているとき	・糸コマを外し、糸立棒にからまった糸を外してください。
	・針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	・新しい針に交換してください。
	・上糸調子が強すぎる時。	・上糸調子を弱くしてください。(小さい数字)
	・針に対して糸が太すぎる時。	・太い針に交換してください。
	・針の付け方が間違っているとき。	・平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。
ぬい目が飛んだりつった状態になる	・ボビンのセットが間違っているとき。	・使用の手びきを確認し、正しくボビンを入れ直してください。
	・ボビンに糸が正しく巻かれていないとき。	・使用の手びきを確認して正しくボビンに糸を巻いてから使用してください。
	・糸かけが間違っているとき。	・使用の手びきを確認して、上下糸をかけ直してください。
	・ご使用の糸が古いとき。	・新しい糸をご使用ください。
	・上糸をかけるときに、押え上げレバーを上げていないとき。	・押えを上げた状態で、上糸をかけ直してください。
	・糸案内台に糸をかけているとき。	・使用の手びきを確認して、正しく上糸をかけ直してください。
	・針の取り付け方が間違っているとき。	・平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。
	・布が引っ張られているとき。	・ぬいながら布を引っ張らず、ミシンの送りに任せてください。
針が折れる	・針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	・新しい針に交換してください。
	・針の付け方が間違っているとき。	・平らな面が後ろを向いた状態で針を差し込み、付け直してください。
	・糸案内台に糸をかけているとき。	・使用の手びきを確認して、正しく上糸をかけ直してください。
布が縮む	・上糸のかけ方が間違っていたり、余計な部分に引っかかっているとき。	・使用の手びきを確認して、上下糸をかけ直してください。
	・針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	・新しい針に交換してください。
	・上糸の糸調子が強すぎる時。	・上糸調子を弱くしてください。(小さい数字)